



C 2008 プロジェクト計画レポート

~C プロジェクト計画 2006 実施事項報告書~

平成 21 年 1 月

C プロジェクト計画担当者会議
(国土交通省、大阪府、奈良県、流域市町村)

目 次

はじめに.....	1
Cプロジェクト計画の理念と目指すべきもの.....	2
1．計画策定の経緯.....	2
2．計画の目標と意義.....	2
(1) Cプロジェクト計画とは.....	2
(2) Cプロジェクト計画の目標.....	2
(3) Cプロジェクト計画の意義.....	3
約1年間の取り組み報告.....	4
1．H19年次・H19年度を振り返って.....	4
1.1 関係機関別で見た目標達成評価.....	4
1.2 3Cの視点から見た取り組み状況.....	6
2．生命・財産を守る安全で安心な大和川を目指して.....	8
2.1 取り組みについての総括.....	8
2.2 事例紹介.....	10
3．次世代に伝える美しい大和川を目指して.....	20
3.1 取り組みについての総括.....	20
3.2 事例紹介.....	23
4．地域を育む豊かな大和川を目指して.....	39
4.1 取り組みについての総括.....	39
4.2 事例紹介.....	40
先駆的事例紹介.....	46
1．浸水常襲地域における減災対策緊急プログラム作成.....	46
2．まるごとまちごとハザードマップ.....	47
3．地域住民との協働による生物調査・水質調査.....	48
4．大和川市民ネットワークの設立.....	49
Cプロジェクト取り組みに関する住民意見の取りまとめ.....	50
「奈良県の山の日・川の日」での活動紹介.....	52
今後の取り組み（更なる推進に向けて）.....	54

はじめに

この報告書は、大和川の再生を加速するために H18 年 9 月に策定された C プロジェクト計画 2006 をもとに、計画を推進している国土交通省・大阪府・奈良県・流域 38 市町村の各機関が、これまでの約 1 年間に取り組んだ事項のうち、特に多くの方々を知っていただきたい事項をとりまとめたものです。

この報告書では、「生命・財産を守る安全で安心な大和川を目指した取り組み」、「次世代に伝える美しい大和川を目指した取り組み」、「地域を育む豊かな大和川を目指した取り組み」の 3 つの視点に分けて整理しており、この報告書をご覧頂いた方々には、大和川流域の各機関が大和川の再生という 1 つの目標に向けてそれぞれどのような方針でどのような取り組みを行っているかを知っていただくと考えています。



水環境に関する具体的な取り組みについては、大和川水環境協議会で別途「C プロジェクト計画 2006（水環境編）の取り組み成果報告書」が取りまとめられています。

この報告書を通じて各機関が取り組んでいる事例の情報を共有するとともに、流域の住民とも連携・協力しながら C プロジェクト計画を推し進め、あと 2 年に迫った平城遷都 1300 年を目指して、さらに大和川の再生を加速させていきたいと思いをします。

H21 年 1 月
C プロジェクト計画担当者会議

Cプロジェクト計画の理念と目指すべきもの

1. 計画策定の経緯

H16年、大和川下流部の付替え300周年を迎えた年に、本川の平均水質が環境基準レベルを下回った（8地点の平均BOD値）ことから、大和川再生に向けた気運が一気に高まりをみせました。

H17年3月には流域の代表市町村長、奈良県知事、大阪府知事、国土交通大臣が出席し、「大和川水環境サミット」が開催され、流域住民と行政のパートナーシップによる大和川の再生のキックオフとなる「大和川水環境サミット宣言」が採択されました。

この宣言では平城遷都1300年にあたるH22年（2010年）を目標として、関係市町村、奈良県、大阪府、国土交通省が一致協力して3つの将来像、

生命・財産を守る安全で安心な大和川

次世代に伝える美しい大和川

地域を育む豊かな大和川

に向けた取り組みを進めていくこととし、これを実現するためにCプロジェクト計画を立案することとなりました。

そしてH18年9月、流域住民、国土交通省、奈良県、大阪府、流域38市町村が一堂に会して開催した「大和川フォーラム」において「Cプロジェクト計画2006」を策定しました。

2. 計画の目標と意義

(1) Cプロジェクト計画とは

平城遷都1300年にあたるH22年（2010年）を目標年として流域が一丸となって「大和川の再生を加速させる」計画です。

(2) Cプロジェクト計画の目標

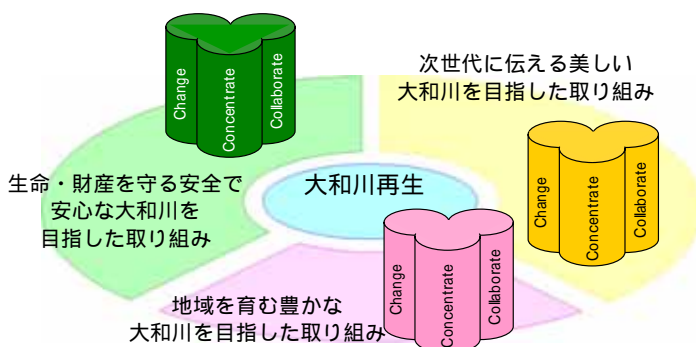
大和川水環境サミット宣言文で示された以下の3つの姿を掲げています。

生命・財産を守る安全で安心な大和川

次世代に伝える美しい大和川

地域を育む豊かな大和川

Cプロジェクト計画では上記の目標実現をめざして、水質の悪い大和川というイメージを変えていく（Change）、流域全体が連携する（Collaborate）、力を集中する（Concentrate）、などを重視していきます。



(3) Cプロジェクト計画の意義

1) 日本全国の河川の目標になる

大和川流域の歴史は古く、太古から大和川とともに暮らしており飛鳥・藤原京や平城京がおかれるなど、**我が国の歴史を見つめてきた川**といえます。また、万葉の昔から多くの歌人らに愛されてきた川であり、**日本文化を育んだ母なる川**でもあります。

一方、大和川は治水上厳しい条件におかれ、水質等の課題も多く、さらに、水資源にも恵まれないという**全国の河川に共通する課題を数多く有する河川**でもあります。

Cプロジェクト計画を推進することにより、これらの課題を克服し、さらに日本古来の歴史的・文化的背景を有する大和川を再生することは、**日本全国の河川の目標となりうる**ものです。

2) 流域の一体感を醸成し、大和川の価値を高める

Cプロジェクト計画の推進には、共通の目標のもと、流域が一体となって力を集中して取り組んでいくことが必要です。これを実現することで、流域住民と行政機関が“**流域の上下流、左右岸がひとつにつながっている**”ことを認識し、**流域の一体感を醸成するとともに**、大和川の価値が高まり、**日常の暮らしや人生に関わりの深い存在となる**ことが期待できます。

約1年間の取り組み報告

1. H19年次・H19年度を振り返って

1.1 関係機関別で見た目標達成評価

Cプロジェクトのもと、各自治体が行っている事業は治水事業のようなハード対策から清掃活動や生物調査、環境学習等のソフト対策まで多岐にわたっています。この1年の取り組み計画に対する実施状況を見ると、天候が原因によるイベントの中止等を除き、いずれの自治体においても計画していた取り組みを概ね実施しています。

国及び各自治体は、Cプロジェクトを計画的に進めていくために今回、ロードマップ¹を作成し、それをもとに取り組み総数を見ると、H19年度及びH19年次²の市町村の平均取り組み数が約13件、大和川河川事務所は45件、奈良県が71件、大阪府が51件です。市町村では、生駒市、橿原市、桜井市、斑鳩町、川西町、河内長野市、羽曳野市、藤井寺市の8市町の取り組み数が20件以上となっており、積極的に取り組んでいます。

また、取り組み総数ではなく、取り組み事業の内容でみると、市町村の平均が約7種、大和川河川事務所が13種、奈良県が17種、大阪府が15種となっており、ハード対策からソフト対策までを網羅している国、府県は市町村に比べて取り組む事業も多岐にわたっています。

市町村では、生駒市、橿原市、桜井市、河内長野市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市の7市の取り組み種数が10種以上となっており、府県と同程度の多様な取り組みを進めています。

生駒市、桜井市、橿原市、河内長野市、羽曳野市、藤井寺市の6市は、取り組み件数、取り組み内容ともに多く、自治体を挙げて積極的にCプロジェクト計画を進めています。

取り組み内容別の実施状況では、多くの自治体で取り組まれているものとして、水害の情報提供や水防活動に関する取り組み、生活排水対策に関する取り組み、清掃活動が挙げられます。

一方、ほとんど取り組み事例がなかった項目（ソフト対策に限定）としては、大和川の歴史や文化を深く知る取り組みや地域住民が交流できる取り組みが挙げられます。

今後は、取り組み件数だけでなく、あまり取り組みが進んでいない内容のものに対しても何らかの方策を検討していくことも必要と考えています。

¹ 詳細は P.55～P.56 を参照

² Cプロジェクト計画は9月～8月を基準としているが、ハード事業に代表されるように、事業によっては4月～3月で評価することが望ましいものも含まれている。このため、9月～8月で評価できるものについては年次、4月～3月で評価するのが望ましい事業については年度とし、年次に分類される事業についてはH19年9月～H20年8月、年度に分類される事業についてはH19年4月～H20年3月での達成状況の評価している。

表 1 H19 年次及び H19 年度実施状況一覧

自標の体系	国	奈良県	大阪府	奈良市	生駒市	高田市	大和町	橿原市	津和野市	宇陀市	葛城市	御所市	豊中市	葛城市	宇陀市	三木町	川原町	三宅町	田原市	高田町	明日香村	上牧町	王寺町	広橋町	河合町	大淀町	大坂市	堺市	藤田市	阿南市	八尾市	松原市	柏原市	羽曳野市	井原市	大宮市	茨田町	河内町	太子町	津和野町	三木町				
住民が水害の危険性を認識し、万一に備えるため	2	3	2	1			1	2			2						1									1	2			1		2		2		2	1								
	4	25	6														1																												
水害の発生を防ぐために	4	2	3	1	2	1	1	1	1		2	2	1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1			1		1												
	5	1	7	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1			2	1	1												
住民が水害の危険性を認識し、万一に備えるため		5	5	1																																									
			1																																										
水害発生時に速やかに対応するため																																													
		1	1	2																																									
水害発生時に速やかに対応するため																						2																							
		1	1	2																		2																							
水害発生時に速やかに対応するため	2	11	7	3	8		4	2	8	5	4	1									2	1	5	2	1	1	1	1																	
		8	8	1	5	3	1	3	4	5	2	1	4	2	1	4	2	2	2	1	2	2	4	3	5	2	4	4	3	5	1	4	4	3	5	2	3	1	1						
水害発生時に速やかに対応するため	3	1	1	1	1	1	1	1	1		1																																		
																							2																						
水害発生時に速やかに対応するため	7	1			3		1	2	8	3												1	2																						
水害発生時に速やかに対応するため	1	2	4	1	4																																								
	3	4	1		1																																								
水害発生時に速やかに対応するため	1	1	1																																										
	5																																												
水害発生時に速やかに対応するため	4	2	3		2																																								
	4	2	3		2																																								

: 取り組み数が8以上
 : 取り組み数が5以上
 : 取り組み数が3以上
 : 取り組み数が1以上

1.2 3Cの視点から見た取り組み状況

Cプロジェクトは、大和川の将来像（ 生命・財産を守る安全で安心な大和川、 次世代に伝える美しい大和川、 地域を育む豊かな大和川 ）の実現に向けて、「change(変化)」、「collaborate(連携)」、「concentrate(集中)」の“3C”の視点から取り組んでいます。

ここでは、“3C”の視点から見た取り組み状況について整理します。³

Change(変化)

変化には 目に見える変化 と 目に見えない変化 の2つがあります。

目に見える変化 としては主に大和川河川事務所、奈良県及び大阪府によって進められている護岸改修や砂防堰堤の設置、土砂災害警戒区域の指定といったハード整備や市町村によって進められている下水道整備や接続に向けた支援活動が挙げられます。

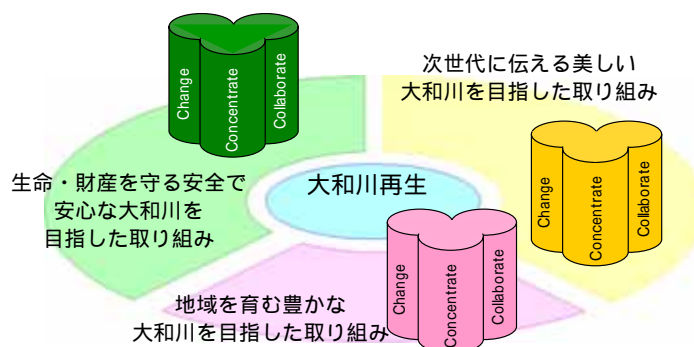
これらの事業の進捗率はわずかではありますが、着実に進められています。

その他の H19 年度、H19 年次に実施した取り組みで 目に見える変化 としては、奈良県内すべての河川での浸水想定区域図の公表完了、大阪府の「おおさか防災ネット」を通じたリアルタイムの防災関連の情報提供、市町村によるハザードマップの作成・公表等が行われました。

その他にも、松原市と大和川河川事務所では、大和川流域内で初めて「まるごとまちごとハザードマップ」(詳細は P.47)の一環で看板設置、ポスター作成を行う等、はじめての取り組みも行われました。

防災関連以外では、奈良県で進められている「地域が育む川づくり事業」や大阪府で進められているアドプトリバー制度といった地域住民が主体となった事業に対するサポート体制の充実を図る等も進められています。

一方、目に見えない変化 を進めるための取り組みとしては、生活排水対策に関する意識啓発、出張講座や河川情報誌配布を通じた意識啓発等、各自治体で積極的に実施されています。これらの効果が顕在化してくるには長い時間がかかりますが、参加者からは良好な感想が返ってきており、長期的な取り組みとしては効果が期待できます。



³ Cプロジェクト計画で実施している事業は単純に「change(変化)」、「collaborate(連携)」、「concentrate(集中)」のいずれかに分類できる事業ばかりではなく、複数に分類されるものも多数あり、以下で整理している取り組みについても重複して記載しているものもあります。

collaborate(連携)

連携には 自治体間の連携 と 自治体と住民との連携 の2つがあります。

自治体間の連携 では、12年ぶりに奈良県内で大和川合同水防演習が行われたり、大和川流域の自治体が協力して大阪府地域防災総合演習が開催されたりと、自治体の枠を超えた大規模な防災訓練が実施されました。

その他にも、飛鳥川流域の5市町村で立ち上げている飛鳥川流域生活排水対策推進会議では水質向上に向けた取り組み、河内長野市を中心とした近隣6市町村及び大和川水環境協議会では地域住民を対象とした環境学習会が継続して行われる等、防災面以外でも自治体の枠を超えた連携が行われています。

自治体と住民との連携 では、各市町村単位で実施している自治体と地域住民が協働で行う清掃活動や自治体の境界を越えて流域で実施している大和川・石川クリーン作戦といった美化活動が特に盛んに行われています。特に大和川・石川クリーン作戦への参加者は増加傾向にあり、地域住民との連携は深まってきていると言えます。

その他にも学校や地域住民を対象にした環境学習や自然観察会、水質調査等も 自治体と住民の連携 の一つとして挙げることができます。

また、H20年3月に設立された「大和川市民ネットワーク」も 連携 の成果の一つといえます。

concentrate(集中)

集中には ハード面から見た集中 と ソフト面から見た集中 の2つがあります。

ハード面から見た集中では、治水安全度向上を目指した河道整備事業の実施や土砂災害防止のための砂防堰堤整備等の事業が計画通りに進められています。

その他、特出すべき取り組みとしては防災調整池に対する技術基準の見直しがあります。この見直しに伴い、流域防災調整池の整備が進めば、ピーク流量低減の効果が期待できます。

ソフト面から見た集中 としては、学校や地域住民を対象とした環境学習や出張講座といったイベントや大和川・石川クリーン作戦をはじめ、大規模に実施している清掃活動といったイベントが挙げられます。

その他、奈良県では「奈良県山の日・川の日」条例制定に伴い、H20年7月に川への関心と理解を深めてもらうイベントを開催し、参加者からは好評な反応が返ってきています。

2. 生命・財産を守る安全で安心な大和川を目指して

2.1 取り組みについての総括

治水事業や地すべり対策事業といったハード対策は概ね計画通りに進んでいます。

奈良県では、県内全ての河川で浸水想定区域図の公表が完了しました。これを受けて、奈良県内の12市町ではハザードマップの公表を行い、H19年は水害に対する情報提供という面で大きく前進した一年といえます。H20年度も未公表の市町村でハザードマップの作成を進めます。

防災訓練は、個別の自治体だけでなく、自治体の境界を越えた広域防災訓練を大阪府・奈良県双方で行いました。防災訓練時には、消防署や水防団といった専門家だけでなく、地域の住民が参加できるように工夫し、参加者がもっとも多い防災訓練では約1万人の参加者がありました。

防災意識の啓発活動は、大和川流域で初めて「まるごとまちごとハザードマップ」の看板を設置する等、新たな試みを行いました。

しかし、住民の防災意識の向上が十分図れているとは考えていません。普段、啓発活動に関心を持たない年齢層をいかに取り込むかが今後の課題です。

図1は、府県、市町村がロードマップの中でH22年までに取り組み予定として挙げている事業の延べ取り組み数⁴に対するH20年8月時点の進捗状況を整理したものです。

府県、市町村ともロードマップで示した事業を着実に実行しており、単年（H19年）の実施率は概ね100%となります。

⁴ 延べ取り組み数は、ロードマップ作成時にH22年までに実施予定である業務の総取り組み年数（4年間実施する場合は取り組み数4とみなす）を示している。H19年に実施した事業の中にはロードマップに記載していない事業も含まれており、その場合、「延べ取り組み数＜実施事業数」となる

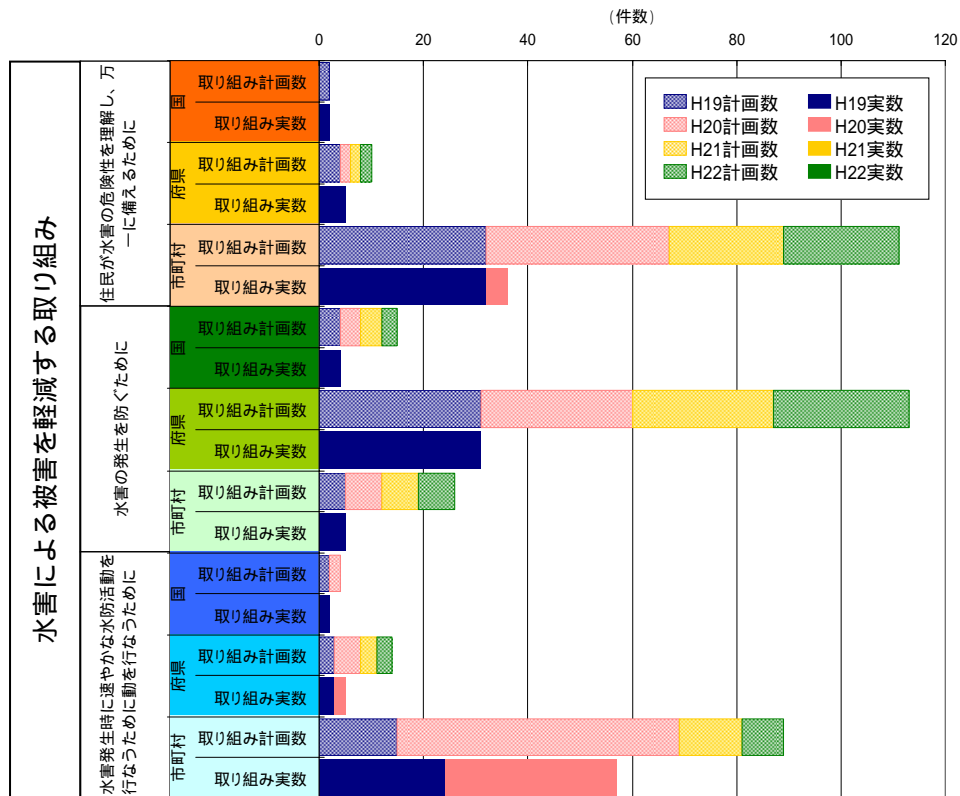


図 1(1) 府県及び市町村の取り組み状況

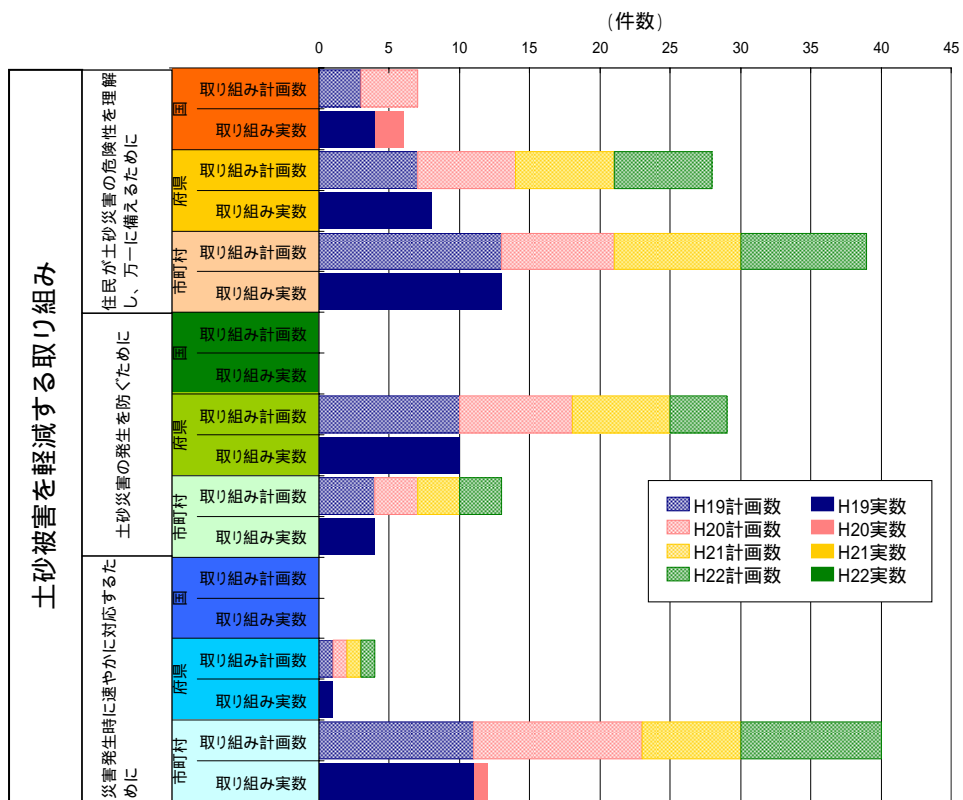


図 1(2) 府県及び市町村の取り組み状況

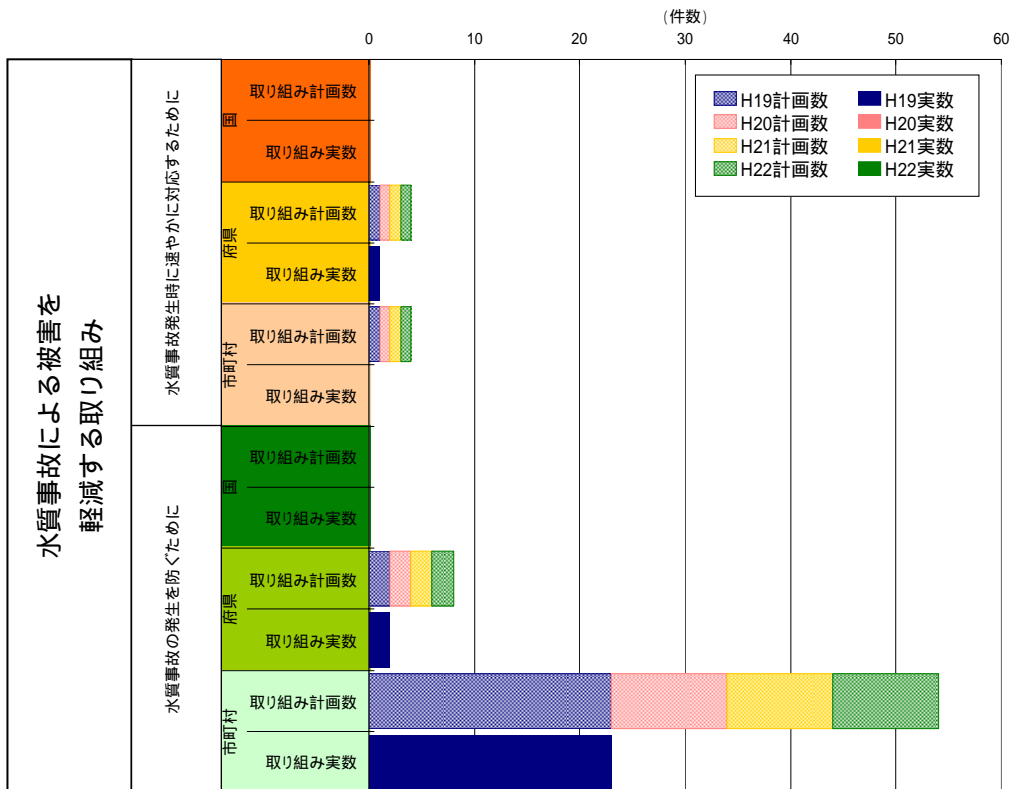


図 1(3) 府県及び市町村の取り組み状況

2.2 事例紹介

「生命・財産を守る安全で安心な大和川」を目指すための事業は大きくハード面とソフト面に分けることができます。

国や府県は、治水事業や土砂災害防止事業等のハード面の取り組みや災害区域の指定作業の比重が大きく、市町村は防災意識の啓発関連や防災訓練、事業所への立ち入り・指導といったより住民にとって身近な取り組みの比重が大きくなっており、「安全・安心」のための取り組みは、役割分担が進んでいます。

P.12 以降に代表的な取り組み事例を紹介します。

なお、表中で整理している自治体名は、H19 年度あるいは H19 年次に当該取り組みを実施している自治体名をすべて記述しています。

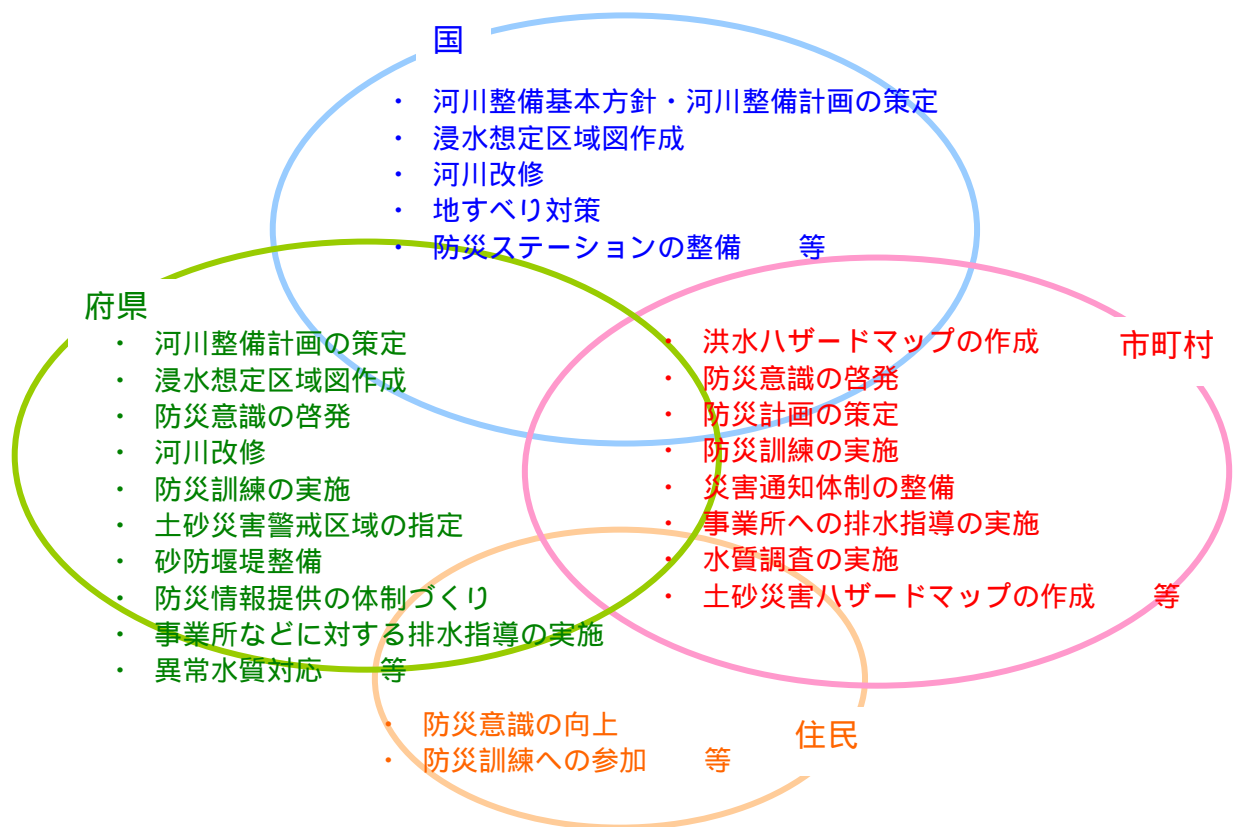


図 2 国・府県・市町村・地域住民が担う役割の概要図

< 紹介事例リスト >

事業 No	事業概要	
No.1	事業内容	浸水想定区域図、洪水ハザードマップの公表による防災情報の発信
	実施状況 (H20.8 末)	大阪府（大和川流域内）：ハザードマップ作成率 100% 奈良県（大和川流域内）：ハザードマップ作成率 52%
No.2	事業内容	防災情報提供の取り組み
	実施状況	「おおさか防災ネット」や「統一河川情報システム」のサービス開始をはじめ、様々な形での情報提供を実施
No.3	事業内容	防災訓練の実施
	実施状況	自治体毎の訓練だけでなく、合同訓練の開催も行われている
No.4	事業内容	河川整備や地すべり対策によるインフラ整備
	実施状況	H22 年目標に対して着実に実施中
No.5	事業内容	総合治水
	実施状況	

事例 No.1 | **事業内容**：浸水想定区域図、洪水ハザードマップ公表による防災情報の発信

H20年8月までに公表済みの自治体名：大和川河川事務所、奈良県、大阪府、Cプロ計画参加37市町村中22市町村

キ - ワード：Change

事業の継続性：H20年度は奈良市、大和高田市、桜井市、生駒市、香芝市、葛城市、高取町、明日香村、王寺町、広陵町、大淀町で作成中

事業内容及びPRポイント：

奈良県では、H18年から3箇年で浸水想定区域図の公表を行い、H20年4月までに対象となる18河川全てについて公表が完了しました。

これを受けて、奈良県内の市町村では洪水ハザードマップの作成が進んでおり、H20年8月時点で大和川流域の12市町村の作成が完了しています。

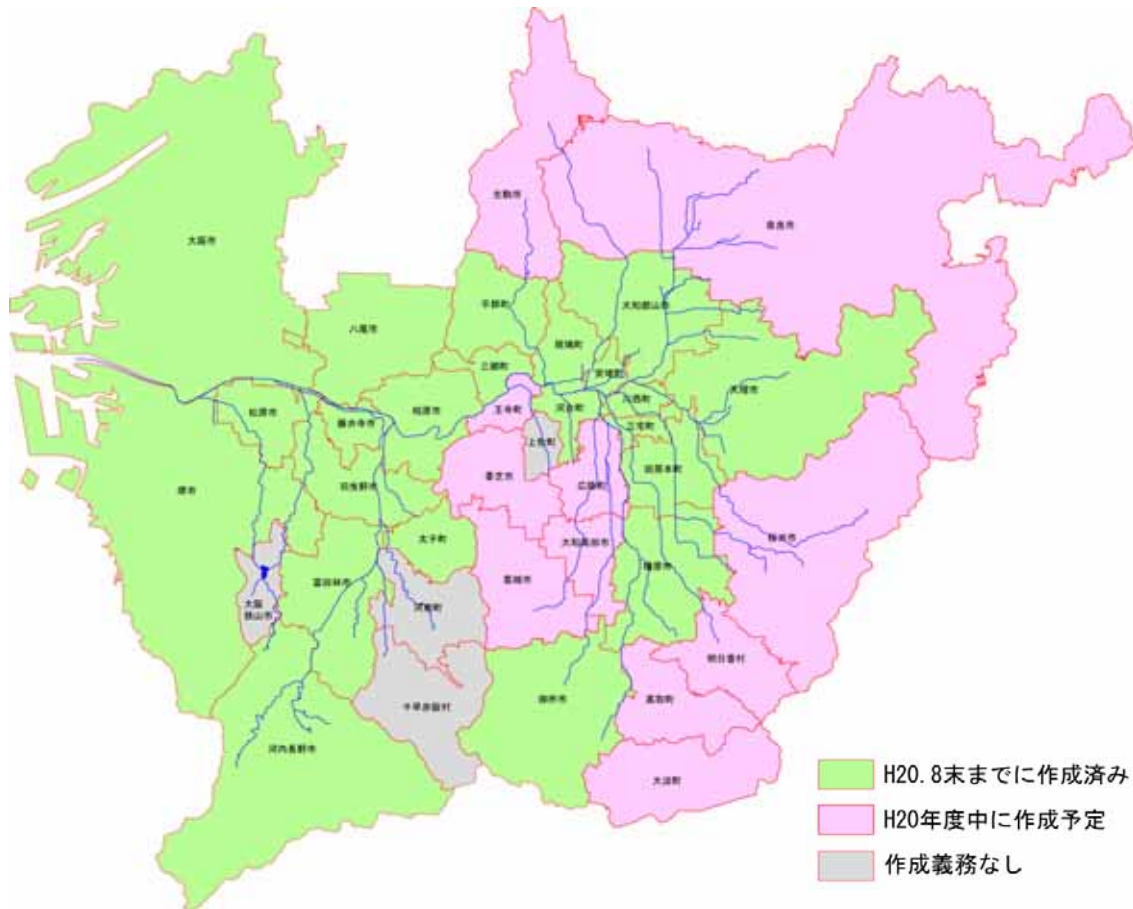
大阪府内でも順調に公表作業が進み、大和川流域の市町村におけるハザードマップの公表率は100%となっています。

多くの自治体では防災に係る様々な情報を載せており、工夫したものとなっています。



羽曳野市ハザードマップ

洪水ハザードマップ作成・公表状況：



事例 No.2 事業内容：防災情報提供の取り組み（ハザードマップ以外）

自治体名：奈良県、大阪府、橿原市、桜井市、葛城市、斑鳩町、広陵町、大阪府内 13 市町村

キ - ワード：Change

事業の継続性：今後も継続予定

事業内容及び PR ポイント：

大阪府では H19.3.28 から「おおさか防災ネット」を立ち上げ、地域住民に対して、気象警報、地震や風水害等、幅広い防災関係の情報を提供するシステムを開始しています。

同 HP の top page からは大阪府内の市町村毎の防災情報を確認することができ、きめ細かなサービスを提供しています。また、「おおさか防災ネット」上で「防災情報メール」に登録すると、気象情報が携帯端末に配信されます。

奈良県でも、国が地方公共団体等と情報共有を図るために開発した、「統一河川情報システム」を導入し、県内の県、国、気象庁が管理する雨量・水位・レーダ観測データをまとめて、HP に分かりやすく情報提供するシステムを整備しているところです。

また、気象注意報警報や、雨量・水位などの防災情報を、携帯端末にメールで配信するサービスも開始する予定です。

市町村でも様々な防災情報提供の取り組みを進めています。

（取り組み事例の一例）

自治体名	取り組み内容
奈良県	インターネットやメールを使った防災情報提供の実施
大阪府、大阪府内市町村	おおさか防災ネットや防災情報メールを通じた情報提供の実施
橿原市	出前講座、広報誌への記事掲載、メールによる情報提供
桜井市	広報誌への記事掲載
葛城市	講演会の開催
広陵町	広報誌への記事掲載
富田林市	MCA 同報系防災無線システムの局設備を増設



大阪府 HP

◆ 土砂災害警戒情報 ◆
 2月29日（金）から土砂災害警戒情報の発表が開始されました。土砂災害警戒情報は、土砂災害による被害の防止・軽減のため、大雨によって土砂災害発生のおそれが高まったときに、県と奈良地方気象台が連携して発表する新たな防災情報です。
 ● 市町村を単位として県内全市町村に発表されます。
 ● 大雨警報発表中で土砂災害の危険度が高まったとき、テレビ・ラジオなどを通じて発表されます。
 ※詳細は、気象庁のホームページで確認できます。
 ● 防災安全課

広報かしはら H20.3.5 号

事例 No.3 **事業内容：防災訓練の実施**

自治体名：大和川河川事務所、奈良県、大阪府、奈良県内 24 市町村、大阪市、堺市、八尾市、富田林市、河内長野市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市

キ - ワード：Collaborate

事業の継続性：今後も継続予定。流域規模の防災訓練も新規に実施予定。

事業内容及び PR ポイント：

自治体毎の地域防災訓練を行う一方で、国交省、奈良県、奈良県内 24 市町村により奈良県内で 12 年ぶりに実施された合同訓練（大和川合同水防演習：大和川流域以外にも、奈良県内全 39 市町村が参加）や国交省、大阪府、大和川流域 9 市町が連携した大規模な防災訓練（大阪府地域防災総合演習）に見られるように、大和川流域内では、自治体の枠を超えた防災訓練が各地で行われています。

これらの合同訓練では水防や救助の災害応急技術の習熟を図るだけでなく、地域住民の防災意識の向上のきっかけの場となるよう、様々な情報提供を行っています。

今回の防災訓練の結果を踏まえて、よりスムーズに情報伝達が行えるよう、連絡系統の見直しを図る予定です。

（合同実施訓練の一例）

防災訓練	参加人数	実施内容	参加自治体等
大和川合同水防演習 (H20.5.11)	約 2,000 人	・水防演習 ・パネル展示 ・体験展示 等	国、奈良県、奈良県内 39 市町村、広域消防組合他
大阪府地域防災総合演習 (H20.5.15)	約 1,100 人	・水防演習 ・救助演習 ・体験展示 等	国、大阪府、大阪府内 9 市 各市消防局、各水防事務組合他
泉州水防事務組合水防演習 (H20.7.4)	約 500 人	・水防演習	泉州水防事務組合
奈良県防災総合訓練 (H20.8.24)	約 1,400 人	・水防演習 ・パネル展示 ・体験展示 ・非常食の試食 等	国、奈良県、 奈良県内 2 市 8 町



漏水対策工の実演訓練
(泉州水防事務組合水防訓練)



(大和川合同水防演習)

事例 No.4 | 事業内容：河川整備や地すべり対策等によるインフラ整備

自治体名：大和川河川事務所、奈良県、大阪府、生駒市、桜井市、三郷町、河内長野市、藤井寺市

キ - ワード：Change、Concentrate

事業の継続性：今後も継続予定

事業内容及び PR ポイント：

大和川河川事務所、奈良県、大阪府は大和川上下流の流下能力不足箇所に対して、橋梁の架け替え・河川改修等を行い、流下能力の向上を図りました。

今後も計画に則って、河川改修、地すべり対策を着実に進めていく予定です。

また、国交省や府県だけでなく、市町村レベルでも地すべり対策や河道改修、森林保全整備が行われています。

(インフラ整備の一例)

自治体名	事業場所	実施内容	事業目標年
奈良県	奈良市横井町地先	遊水地の新設工事	
	御所市御所地先	葛城川を対象とした「ふるさとの川モデル事業」	H19 年度完了
	天理市九条町筑紫地先	布留川南流において設定した緊急対策特定区間での河道整備を実施	H19 年度完了
大阪府	富田林市西坂持町地先	佐備川を対象とした多自然川づくりによる河道整備	
	堺市東区北野田地先	西除川を対象とした親水空間の創出を含めた河道整備	
生駒市	-	市道小明上線において法枠工を実施	H19 年度完了
桜井市	桜井市萱森地内	緊急間伐事業を実施	
藤井寺市	藤井寺市恵美坂地区、梅が園地区	両地区の雨水管路整備を実施	



「ふるさとの川モデル事業」整備後の写真

(御所市提供)

事例 No.5 | 事業内容：総合治水対策

自治体名：大和川河川事務所

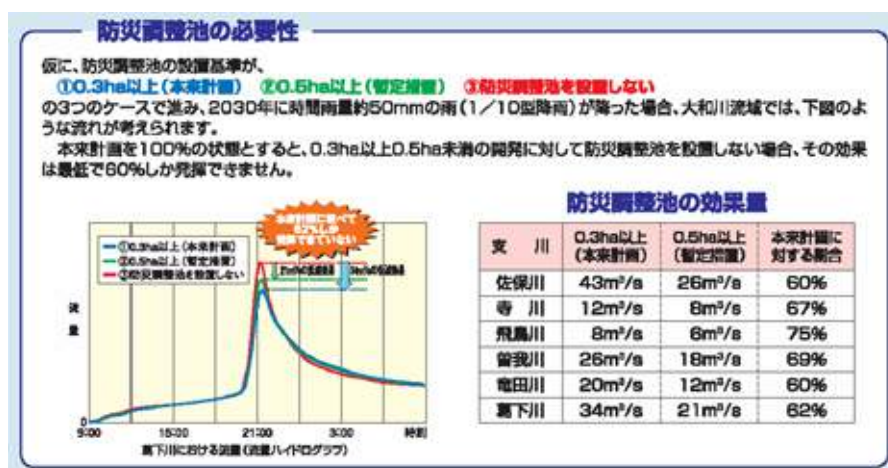
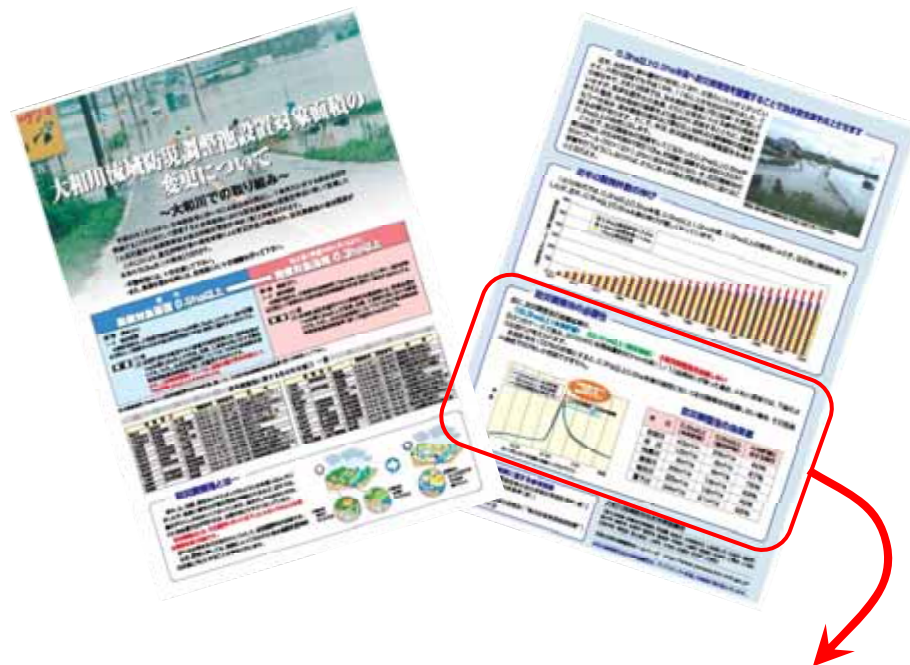
キ - ワード：Change、Concentrate

事業の継続性：今後も継続予定

事業内容及びPR ポイント：

これまでの大和川流域の防災調整池に対する技術基準は0.5ha以上の開発に対するものでしたが、H20年1月からは防災調整池の暫定基準を解除し、小規模開発時にも設置するように変更しました。

近年の頻発する全国的な集中豪雨や、将来にわたる都市の発展を考え、流域がもつべき保水・遊水機能の確保及び適切な土地利用の誘導等の措置を図る必要があると考え、防災調整池の設置範囲を本来の0.3ha以上の開発に戻しました。



【奈良県及び大阪府取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
奈良県	浸水想定区域図の作成	
	浸水常襲地域における減災対策の検討	
	情報連絡体制の整備	
	ダム、河川改修等の治水事業の実施	
	防災訓練の実施	
	土砂災害警戒区域の指定	
	砂防えん堤・溪流保全工の整備	
大阪府	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
	危険情報の発信	
	河川改修、整備計画等の治水事業の実施	
	連絡体制の整備	
	避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドラインの策定	
	防災訓練の実施	
	土砂災害警戒区域の指定	
	砂防えん堤・溪流保全工の整備	
被害拡大防止対策の遂行		
工場・事業場への立ち入り指導等		

【奈良県内自治体別取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
奈良市	ハザードマップの作成	
	防災訓練の実施	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
生駒市	生駒市水防計画の見直し	
	防災訓練の実施	
	土砂災害警戒マップの作成	
	地すべり対策工事の実施	
大和高田市	防災訓練の実施	
大和郡山市	ハザードマップの作成	
	防災訓練の実施	
天理市	ハザードマップの作成	
	防災訓練の実施	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
橿原市	出前講座、広報誌を用いた防災意識の啓発活動	
	防災訓練の実施	
	情報連絡体制の整備	
	地域防災訓練の実施	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
桜井市	防災冊子の配布と意識啓発	
	情報連絡体制の整備	
	職員の防災訓練の実施	
	防災訓練の実施	
	治山事業・緊急間伐事業の実施	
	桜井市安心安全システムの利用	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
御所市	防災訓練の実施	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
香芝市	防災訓練の実施	
葛城市	警報等の気象情報の住民への情報周知	
	防災講演会の開催	
	防災訓練の実施	
平群町	ハザードマップの作成	
	防災訓練の実施	

自治体名	取り組み内容	備考
三郷町	ハザードマップの作成	
	雨水流出抑制施設の設置	
	防災訓練の実施	
斑鳩町	ハザードマップの作成	
	連絡体制の整備	
	防災訓練の実施	
安堵町	防災訓練の実施	
川西町	ハザードマップの作成	
三宅町	防災訓練の実施	
田原本町	防災訓練の実施	
高取町	防災訓練の実施	
明日香村	防災訓練の実施	
上牧町	防災訓練の実施	
王寺町	防災訓練の実施	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
広陵町	防災訓練の実施	
	広報誌への記事掲載	
	防災意識の啓発	
河合町	ハザードマップの作成	
	防災訓練の実施	
大淀町	防災訓練の実施	

【大阪府内自治体別取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
大阪市	「くらしの便利帳」へのハザードマップ掲載による情報周知の実施	
	おおさか防災ネットの配信	
	大和川右岸水防事務組合の訓練の実施	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
八尾市	おおさか防災ネットの配信	
	大和川右岸水防事務組合の訓練の実施	
堺市	ハザードマップの作成	
	おおさか防災ネットの配信	
	防災訓練の実施	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
富田林市	ハザードマップの配信による情報周知の実施	
	おおさか防災ネットの配信	
	防災情報メールの配信	
	防災訓練の実施	
	土砂災害警戒区域の指定に関する説明会の開催	
河内長野市	MCA同報系防災無線システムの整備	
	防災情報メールの配信	
	ハザードマップの配信による情報周知の実施	
	おおさか防災ネットの配信	
	河道改修事業	
	環境保全林整備業務	
	土砂災害警戒区域の指定に関する説明会の開催	
	大阪府風水害対策訓練参加	
事業場への立ち入り、水質調査の実施		
松原市	ハザードマップの作成	
	おおさか防災ネットの配信	
	地域防災訓練の実施	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	

自治体名	取り組み内容	備考
柏原市	ハザードマップの作成	
	おおさか防災ネットの配信	
	土砂災害警戒区域の指定に関する説明会の開催	
	市独自の防災訓練	
羽曳野市	ハザードマップの作成	
	おおさか防災ネットの配信	
	大乘川改修の要望	
	地域防災計画の改訂	
	災害廃棄物処理基本計画の素案作成	
	防災マップの作成・配布	
	急斜地パトロールの実施	
	全国統一防災訓練の実施	
事業場への立ち入り、水質調査の実施		
藤井寺市	ハザードマップの作成	
	おおさか防災ネットの配信	
	浸水対策事業の実施	
	職員による防災訓練の実施	
	自主防災ネットワーク組織の活動支援	
	事業所訪問、開発、指導の実施	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
大阪狭山市	おおさか防災ネットの配信	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
河南町	おおさか防災ネットの配信	
	事業場への立ち入り、水質調査の実施	
太子町	おおさか防災ネットの配信	
千早赤阪村	おおさか防災ネットの配信	

3. 次世代に伝える美しい大和川を目指して

3.1 取り組みについての総括

大和川では水質向上のために、発生源対策、汚濁負荷削減対策、河川の本来機能再生対策、を3本柱として重点的に対策を講じています。

発生源対策は住民に意識を転換してもらい、生活排水に含まれる汚濁負荷量を削減することを最大の対策とし、多くの市町村で様々な取り組み（アクリルタワシ作製講座、美化清掃活動、出前出張講座等）を継続して行っています。

流域全体の取り組みとしては、H20年2月に5回目となる生活排水対策社会実験を実施しました。モデル地区が昨年度の3地区から5地区に増加し、流域住民の生活排水対策への意識が高まっています。

その他、発生源対策の一環として工場に対しても立ち入り検査や指導を継続して行っています。

汚濁負荷削減対策は、発生した汚濁負荷が河川に到達するまでに削減する対策であり、ハード対策とソフト対策を講じています。ハード対策にあたる下水道整備はいずれの市町村においても着実に進めています。

また、下水道への接続率をあげるための啓発活動や資金面でのサポートも行っています。

河川の本来機能再生対策としては、毎年大規模に開催されている清掃活動（大和川・石川クリーン作戦）が挙げられます。この清掃活動への参加者数は増加傾向にあり、取り組みの裾野は着実に広がっています。

その他、治水安全度を向上させるために実施している河川改修の中には、河川の本来機能を再現させる観点から取り組んでいるもの（多自然川づくり、親水空間整備、周辺環境と調和した河川景観の創出）もあります。

これらの地道な努力の甲斐もあり、大和川本川のH19年のBODは、年平均値が4.7mg/L、75%値が5.5mg/Lとなり、昨年に引き続き歴代2位を記録し、2年連続で良好な水質でした。

またH19年11月には、昨年に引き続き仔アユの流下を確認するとともに、アユの産卵場所を確認しました。河川管理者による確認は初めてのことであり、大和川の水質は確実にアユがすめるまでに改善してきています。



アユの卵



仔アユ

図 3 は、府県、市町村がロードマップの中で H22 年までに取り組み予定として挙げている事業の延べ取り組み数⁵に対する H20 年 8 月時点の進捗状況を整理したものです。

府県、市町村ともロードマップで示した事業を着実に実行しており、単年（H19 年）の実施率は概ね 100%となります。

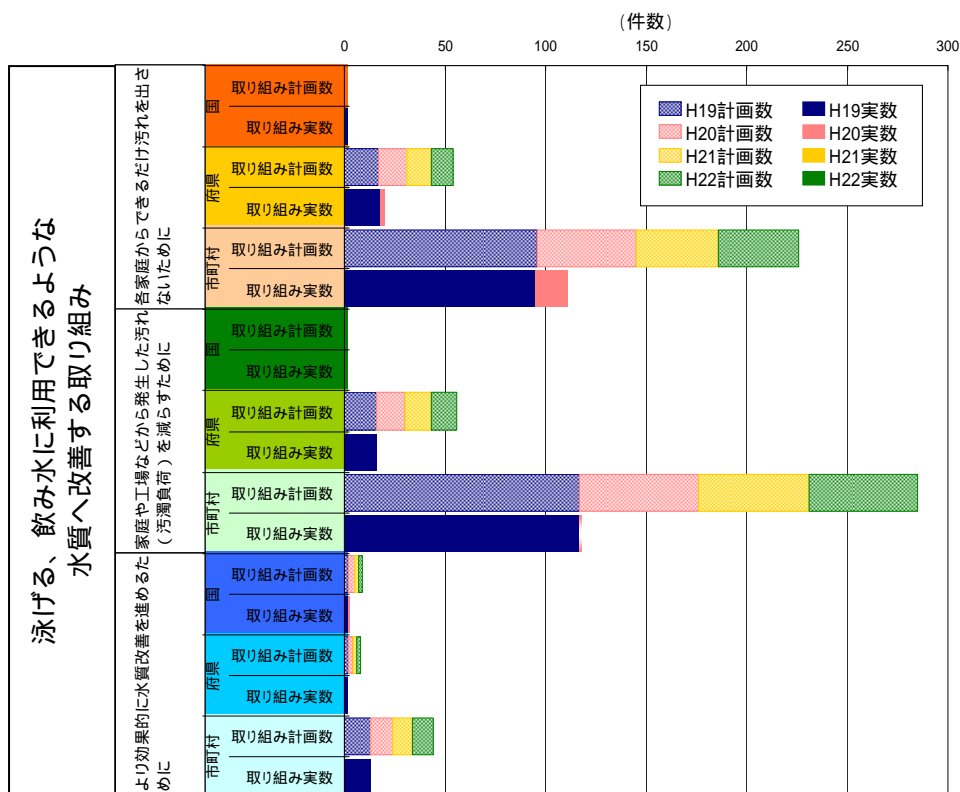


図 3(1) 府県及び市町村の取り組み状況

⁵ 延べ取り組み数は、ロードマップ作成時に H22 年までに実施予定である業務の総取り組み年数（4 年間実施する場合は取り組み数 4 とみなす）を示している。H19 年に実施した事業の中にはロードマップに記載していない事業も含まれており、その場合、「延べ取り組み数 < 実施事業数」となる

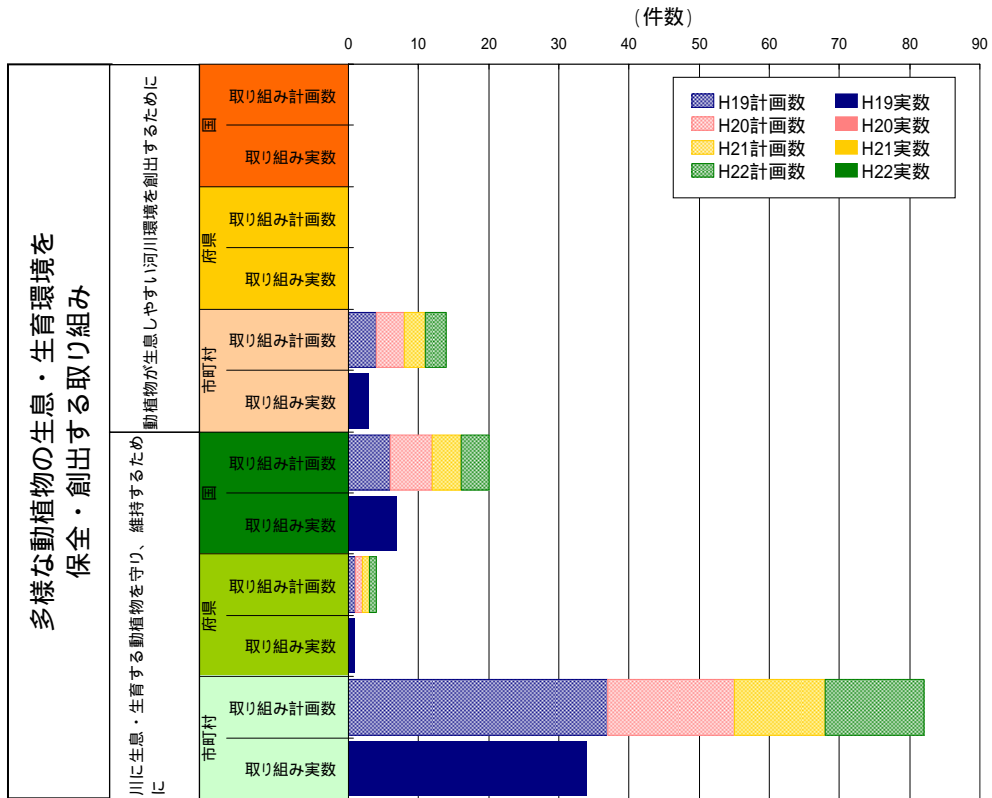


図 3(2) 府県及び市町村の取り組み状況

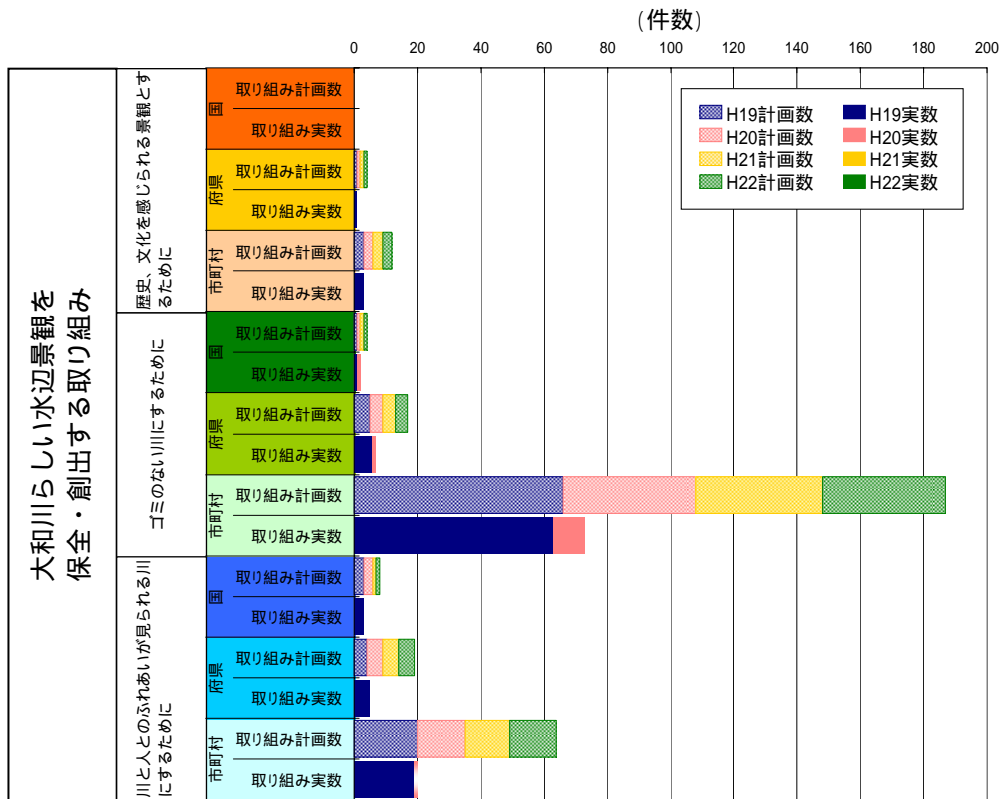


図 3(3) 府県及び市町村の取り組み状況

3.2 事例紹介

「次世代に伝える美しい大和川」を目指すための対策として、泳げる、飲み水に利用できるような水質への改善、多様な動植物の生息・生育環境の保全・創出、大和川らしい水辺景観の保全・創出、の3つの対策を謳っています。

「次世代に伝える美しい大和川」を目指すための事業は府県や市町村が主体となって実施する事業が多くを占めていますが、地域住民の協力も非常に重要となってきます。

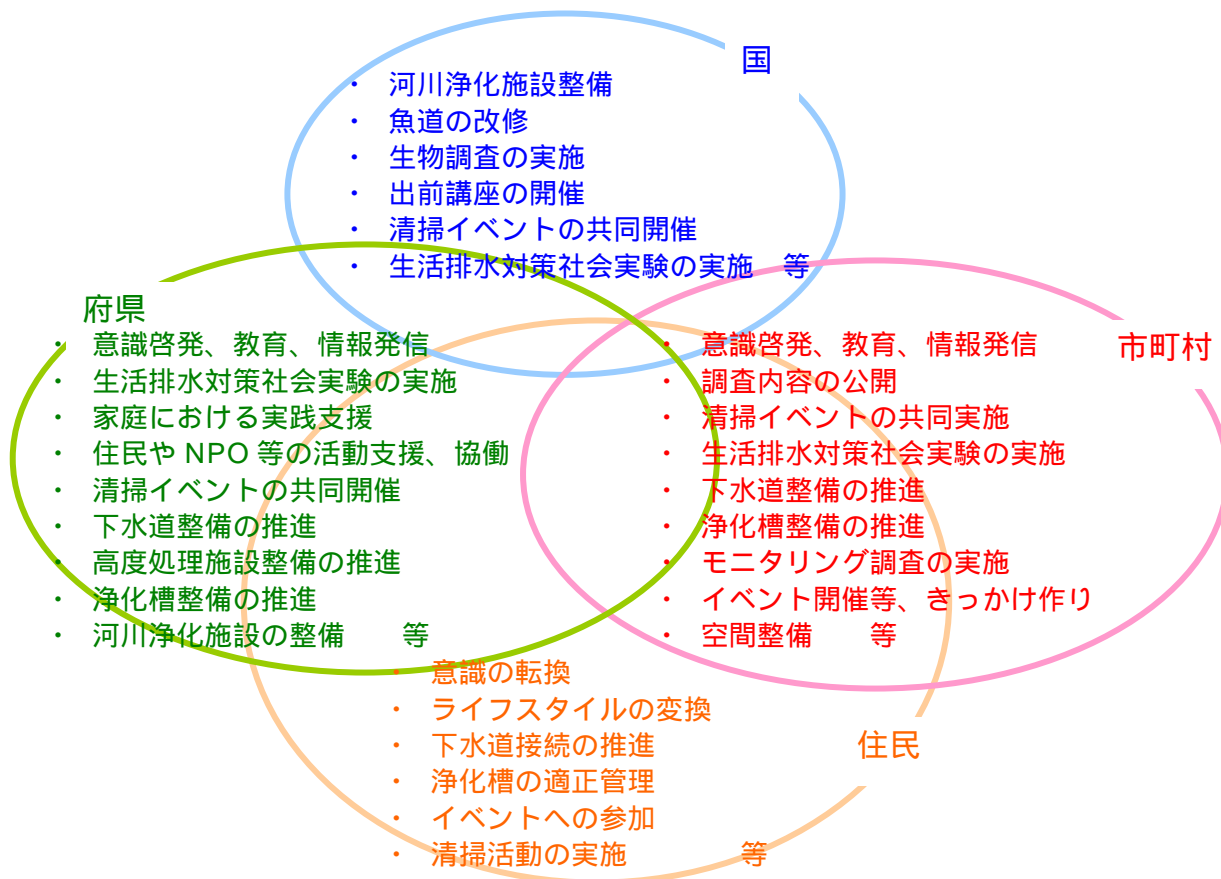


図 4 国・府県・市町村・地域住民が担う役割の概要図

< 紹介事例リスト >

事業 No	事業概要	
No.6	事業内容	生活排水対策（ソフト対策）
	実施状況	自治体単位で啓発活動や啓発商品の配布等、様々な取り組みを行っている。
No.7	事業内容	河川環境や水質等水に関連する環境学習サポート
	実施状況	自治体ごとで様々な内容のイベントや取り組みが進められている。また、周辺自治体合同での取り組みも行われている。
No.8	事業内容	下水道整備
	実施状況	全ての自治体で少しずつではあるが整備が進められている。
No.9	事業内容	浄化槽整備支援、下水道接続支援
	実施状況	未接続家庭への啓発活動や支援等、様々な取り組みを通じて下水道の接続率や合併浄化槽の整備率の向上に努めている。
No.10	事業内容	大和川・石川クリーン作戦
	実施状況	参加人数は増加傾向にあり、裾野が広がっているといえる。
No.11	事業内容	その他の地域住民との協働による清掃活動
	実施状況	地域毎でも定期的な清掃活動が行われており、河川への関心が少しずつではあるが、高まっていると言える。
No.12	事業内容	清掃活動以外の環境美化活動
	実施状況	看板等の設置を通じた啓発活動やパトロール等を行っている。

事例 No.6

事業内容：生活排水対策（ソフト対策）

自治体名：奈良県、大阪府、奈良市、生駒市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、香芝市、葛城市、河合町、御所市、三郷町、斑鳩町、川西町、三宅町、田原本町、上牧町、王寺町、広陵町、大阪市、堺市、河内長野市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、河南町、太子町

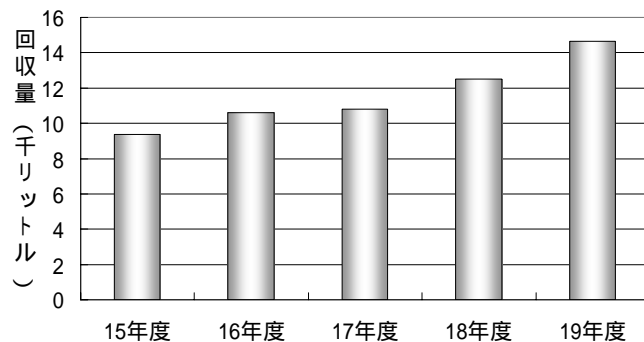
キ・ワード：Change

事業の継続性：今後も継続予定

事業内容及びPRポイント：

下水道や合併浄化槽整備といったハード対策以外に、市報や街頭での啓発活動や、イベントでの啓発品の配布、廃油回収等のソフト対策を積極的に実施している市町村もあります。

特に橿原市、川西町、三宅町、田原本町、明日香村の1市3町1村は「飛鳥川流域生活排水対策推進会議」を立ち上げ、H6年度から廃油の回収や啓発活動等を実施しています。同推進会議が回収した廃油量は年々増加傾向にあり、H19年度は5市町村で約1万4600が回収されています。



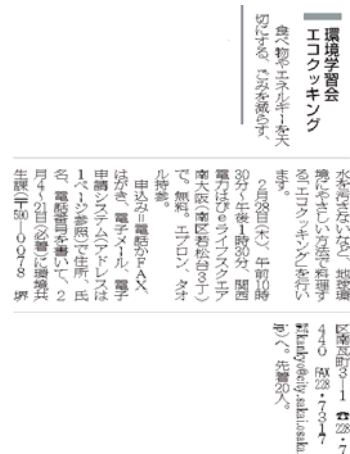
奈良県では大和川流域の生活排水対策として長く取り組まれているアクリルタワシの作製講座を毎年開催しており、H19年度も計5回開催し、193名が参加しています。このイベントは好評であることから、今後もソフト対策の一つとして実施していく予定です。

大阪府域では、2月を生活排水対策推進月間として月間を中心に、広報紙やラジオ等の各種媒体を通じて流域住民に取り組みを呼びかけています。

その他、市町村でも出前講座やパンフレットの配布、エコクッキング等、生活排水対策は多岐にわたって行っています。



アクリルタワシ作製講座
(奈良県提供)



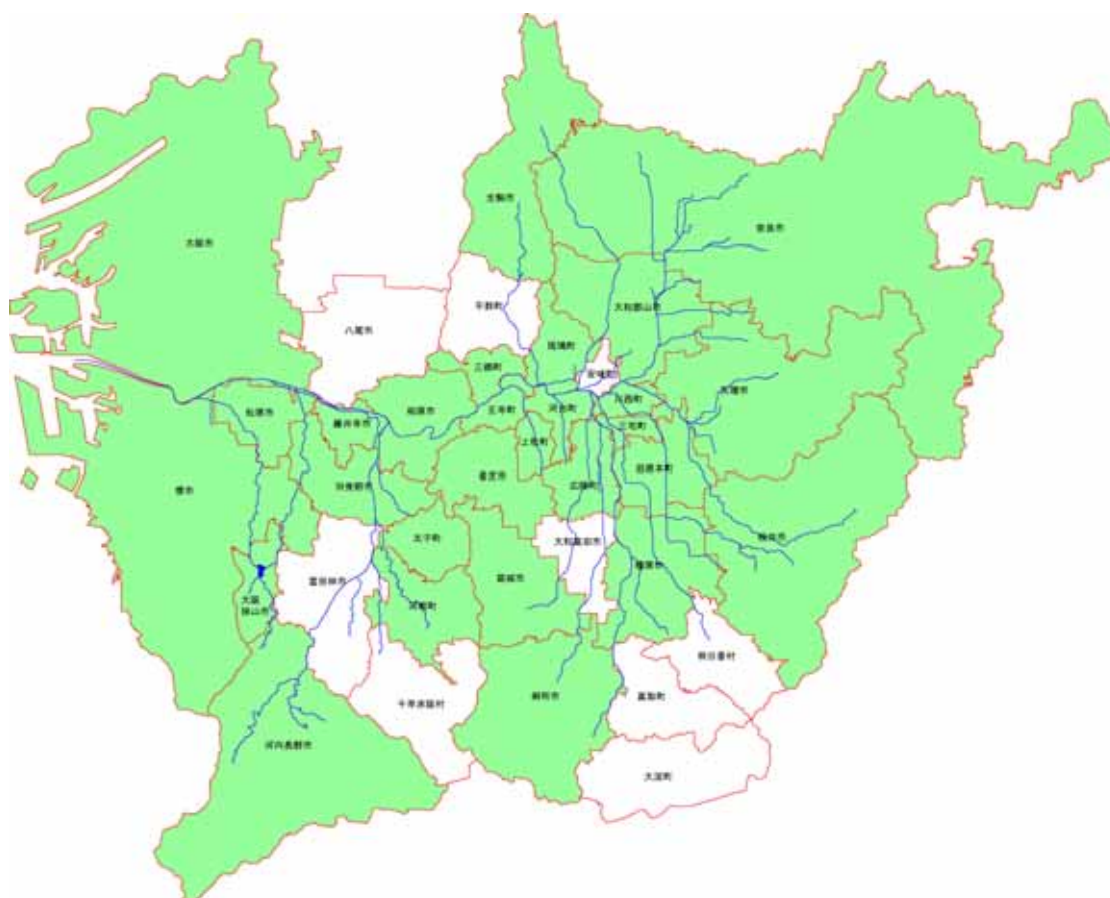
エコクッキング教室参加者募集の記事
(広報さかい H20.2号)

(生活排水対策のための取り組みの一例)

自治体名	取り組み内容	備考
奈良県	パンフレット配布	
	出前講座	
	アクリルタワシ作製講座	年 5 回
	生活排水対策パネル展	年 4 回
大阪府	生活排水対策推進月間を中心とした啓発	
	出前講座を中心とした啓発	
御所市	生活排水対策パネル展示	年 1 回
田原本町	生活排水改善対策パネル展示	年 1 回
羽曳野市	エコクッキング教室	年 2 回。参加者はほぼ定員 (48 名)
大阪市	出前講座	随時
	下水処理場見学会	処理場毎に年 1 回
	下水道科学館での実験教室	年 1 回
	区民まつりでのパネル展示	随時
堺市	エコクッキング教室	参加者数 20 名

流域全体から見たソフト面の生活排水対策取り組み状況：

奈良県内 24 市町村中、何らかの取り組みをしている市町村は 18 市町村 (75%)、大阪府内は 13 市町村中 10 市町村 (77%) で奈良県側、大阪府側とも取り組み率は高く、流域全体でソフト面からの生活排水対策に対する意識の高さが伺えます。



事例 No.7 | 事業内容：河川環境や水質等水に関連する環境学習サポート

自治体名：大和川河川事務所、奈良県、大阪府、奈良市、生駒市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、田原本町、香芝市、王寺町、広陵町、大阪市、八尾市、堺市、富田林市、河内長野市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、河南町、太子町、千早赤阪村

キ - ワード：Collaborate、Concentrate

事業の継続性：今後も継続予定

事業内容及びPRポイント：

各自治体では環境学習の一環として様々な取り組みを実施しています。

下表に示した取り組みは子供たちへの啓発活動としては好評であったことから、今後も継続して行っていく予定です。

(取り組み内容の一例)

自治体名	取り組み内容	備考
奈良県	リバーウォッチング	小学校 12 校 760 名
	出前出張講座	小学校 13 校 719 名
	かっぱ通信の発行	年 3 回、流域内の小学校に配布
橿原市	水に関する出前授業	小学校 10 校 (小学 4 年生を対象)
御所市	クリーンセンター見学会	市内小学校対象
	環境問題に関する講座	小学 4 年生を対象
広陵町	学校内に環境学習コーナーを設置	市内の 8 小中学校で実施
柏原市	水質調査	小学校 2 校
藤井寺市	環境学習会の実施	市内小学校対象

各自治体では小学校や中学校への環境学習サポート以外にも様々な取り組みを行っています。いずれの取り組みも参加者からは概ね好評な感想をいただいております、今後も積極的に取り組んでいく予定です。



リバーウォッチングの様子 (奈良県提供)



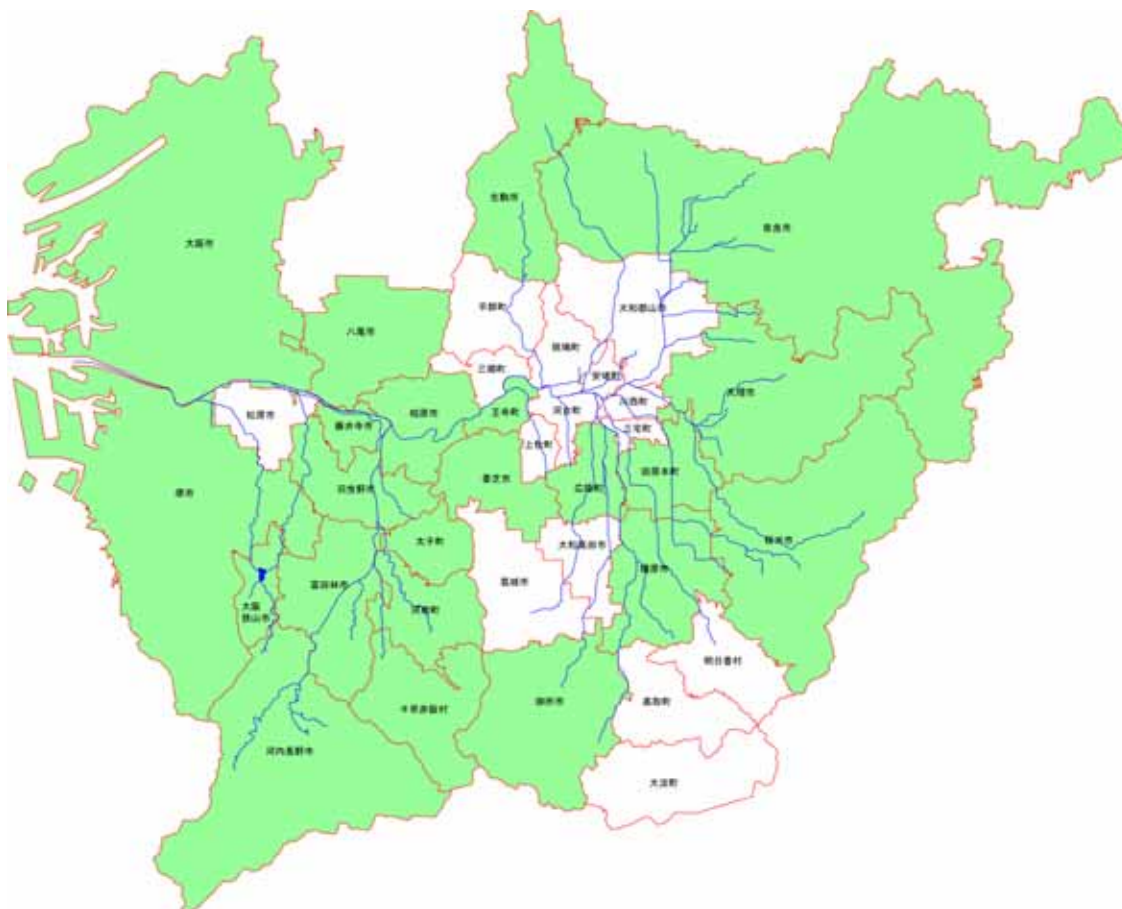
親と子のふれあい自然学習会
(河内長野市提供)

(取り組み事例の一例)

自治体名	イベント	備考
奈良県	ぼくらのかっぱ教室	河川の自然観察会 (参加者 64 名)
奈良市	自然観察会	リバーウォッチング親子の集い (小学生と保護者を対象に実施)
生駒市	自然環境調査	市民調査員による動植物の生息・生育調査
香芝市	香芝ふれあいフェスタ	大和川博士講座、パネル展示、チラシ配布 (イベント全体で約 3 万人が来場)
田原本町		家庭版 ISO (63 世帯に対し、認定証を発行)
大阪狭山市、千早赤阪村、富田林市、河内長野市、太子町、河南町、大和川水環境協議会	親と子のふれあい自然学習会	年 1 回実施 (毎年 200 ~ 300 名が参加)

流域全体から見た環境学習サポートの取り組み状況：

奈良県内 24 市町村中、何らかの取り組みをしている市町村は 10 市町村 (42%)、大阪府内は 13 市町村中 12 市町村 (92%) で大阪府側のほうが取り組み率は高くなっています。



事例 No.8 事業内容：下水道整備

自治体名：大和川流域内 35 市町村

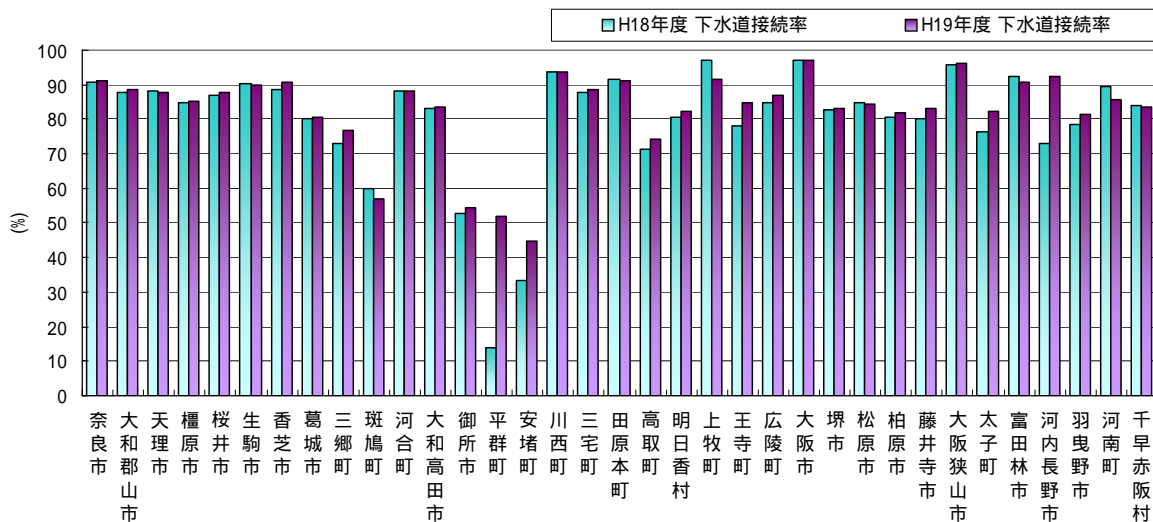
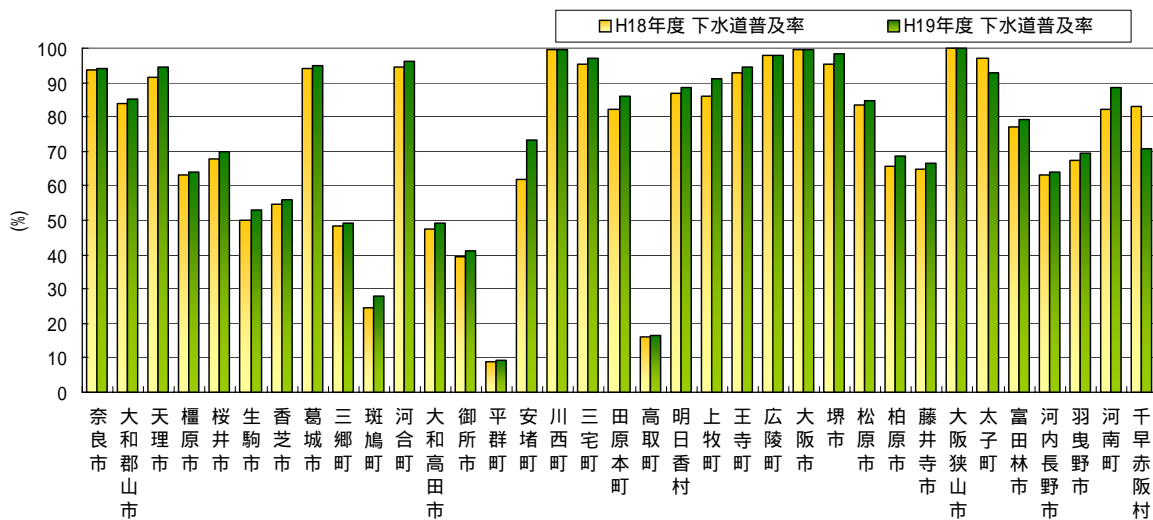
キ - ワード：Change、Concentrate

事業の継続性：今後も継続予定

事業内容及び PR ポイント：

ほとんどの自治体で下水道整備人口、接続人口とも微増しており、着実に下水道整備は進んでいます。各自治体とも下水道整備人口の向上を目指して取り組みを進めていく予定です。

一方、接続人口数の向上は住民の意識改善が必要不可欠であることから、自治体の中には積極的に未接続家庭に対して様々な接続の働きかけを行っており、特に平群町では大幅に接続率が向上しています。



* 接続率=接続人口/普及人口
 (接続人口が増加しても、それ以上に普及人口が増加すると、ケースによっては接続率は低下します。)
 * 宇陀市は流域外のため、大淀町、八尾市の汚濁負荷は直接大和川に流入しないため、上表には記載していません。

事例 No.9	事業内容：浄化槽整備支援、下水道接続支援
<p>自治体名：奈良市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、生駒市、香芝市、葛城市、三郷町、斑鳩町、河合町、大和高田市、御所市、上牧町、王寺町、平群町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、明日香村、広陵町、大阪市、堺市、松原市、柏原市、藤井寺市、大阪狭山市、富田林市、河内長野市、羽曳野市、河南町</p>	
<p>キ - ワード：Change、Concentrate</p>	
<p>事業の継続性：今後も継続予定</p>	
<p>事業内容及びPRポイント：</p> <p>合併浄化槽や高機能型合併浄化槽の設置や下水道への接続に際し、費用面（無利子融資、助成金、斡旋等）の支援を行っている市町村は、35市町村中29市町村、未接続家庭への戸別訪問や通知による啓発活動を行っている市町村は35市町村中12市町村にのびります。（負荷が大和川に流入しない3市町は除外）</p> <p>H19年度に35市町村で実施された総費用面サポート件数は1,200件以上、戸別訪問件数および・通知によるお知らせ件数の総計は6,400戸を越えており、各自治体の浄化槽整備支援、下水道接続支援に対する積極的な姿勢が見えます。</p> <p>特に天理市、橿原市、葛城市、河合町、大阪市、堺市、松原市、柏原市、富田林市、河内長野市では費用面の支援、戸別訪問やお知らせ通知の送付等による接続喚起活動の両方を実施しています。</p>	
<p>流域全体から見た支援体制の整備状況：</p>	
 <p>Legend:</p> <ul style="list-style-type: none"> 戸別訪問・通知等による啓発活動 (Green) 補助金・無利息融資等による経済支援 (Pink) 両方 (Orange) 	

事例 No.10 | 事業内容：大和川・石川クリーン作戦

自治体名：大和川河川事務所、大阪府、大阪市、堺市、八尾市、松原市、柏原市、藤井寺市、富田林市、河内長野市、羽曳野市、河南町（河川清掃実施市町）

キ - ワード：Collaborate、Concentrate

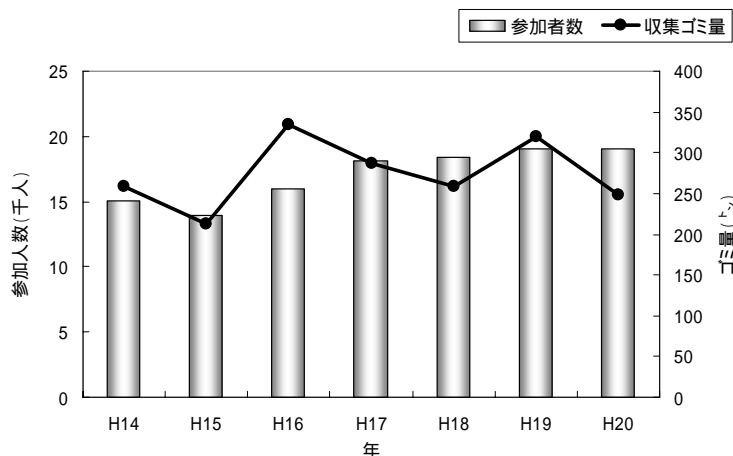
事業の継続性：今後も継続予定

事業内容及び PR ポイント：

大和川・石川クリーン作戦は H8 年度から開催されている河川清掃活動で、毎年 3 月第一日曜日に大阪府内 13 の市町村とともに実施しています。

参加者数は年々増加傾向にあり、前回には約 2 万人が参加し、収集したゴミは約 250 トンでした。

さらに、クリーン作戦当日には、大阪湾や大和川のゴミが漂着しているといわれている兵庫県洲本市の成ヶ島でも清掃活動を行っています。今後も流域を越えた活動にも取り組んでいきたいと考えています。



清掃活動の様子

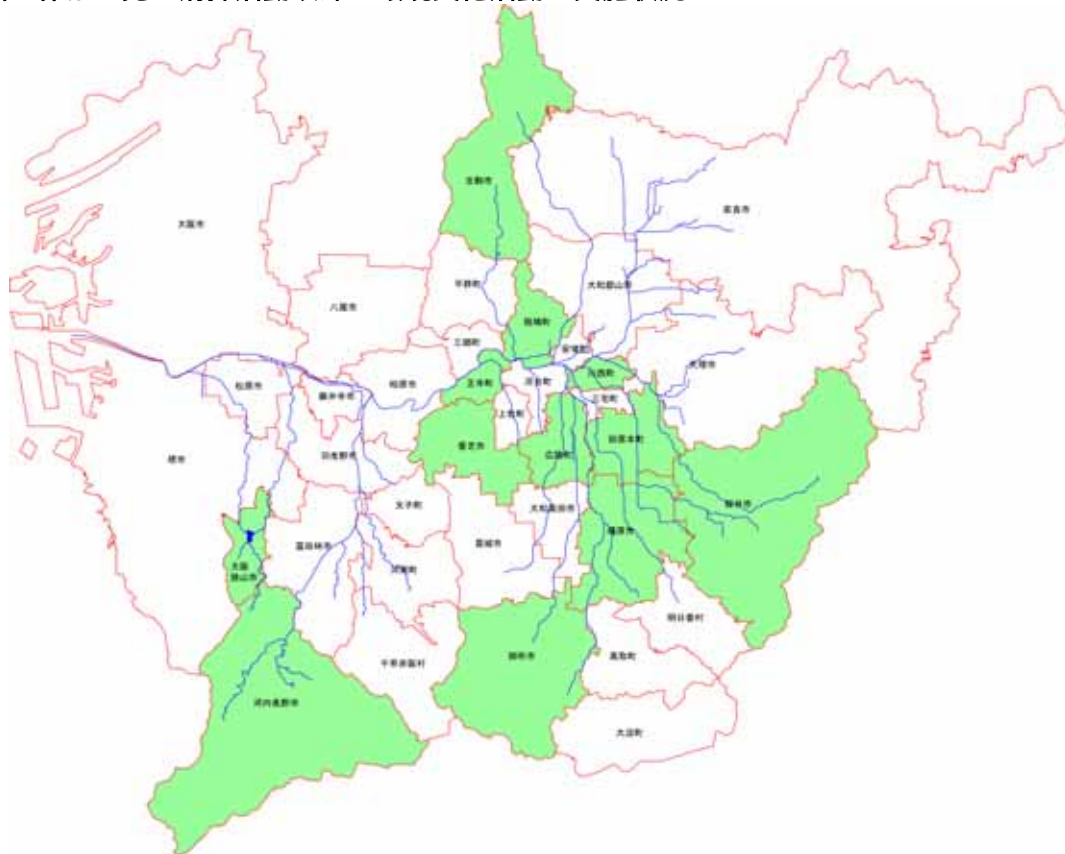


成ヶ島清掃時の写真
(大和川河川事務所提供)

事例 No.11	事業内容：その他の地域住民との協働による清掃活動		
自治体名：奈良県、奈良市、生駒市、天理市、橿原市、桜井市、香芝市、葛城市、御所市、三郷町、斑鳩町、川西町、三宅町、田原本町、上牧町、王寺町、平群町、広陵町、堺市、八尾市、河内長野市、松原市、藤井寺市、大阪狭山市、河南町			
キ - ワード：Collaborate、Concentrate			
事業の継続性：今後も継続予定			
事業内容及びPRポイント： <p>奈良県には「大和川・石川クリーン作戦」のような流域全体での大掛かりなイベントはないものの、自治体や地域団体毎に定期的な清掃活動や年1回の清掃イベントが行われています。</p> <p>大阪府内の市町村の中にも、「大和川・石川クリーン作戦」以外に独自の清掃活動も実施している自治体があります。</p> <p>また、H21年3月に開催する「大和川・石川クリーン作戦」にあわせて同じ日に奈良県側でも大規模な清掃イベントの開催を予定しています。</p> <p>(清掃活動への参加状況の一例)</p>			
自治体名	参加人数	収集したゴミの量	備考 (大和川・石川クリーン作戦は回数に含まず)
奈良県	約 1,500 名	-	佐保川清掃。年 1 回実施
橿原市	-	-	参加自治会数：25 近隣市内河川で実施
生駒市	約 1,200 名	計 7 トン	竜田川流域で年 1 回開催
桜井市	385 名	計 580 トン	河川や水路の堆積土砂の浚渫活動を計 5 回実施
香芝市	-	-	葛下川支流の一部で実施
葛城市	-	-	参加大字数：44 市内一円で年 2 回開催
御所市	-	計 24.3 トン	9月第一日曜をクリーンアップキャンペーンの日として、地域住民とともに清掃活動を実施。 この他、散在しているごみ収集作業を 30 回実施。
三宅町	約 100 名	計 3 トン	年 1 回実施。
田原本町	-	-	不法投棄されたゴミの回収作業を 57 回実施
上牧町	45 名	-	滝川で年 1 回実施
広陵町	-	-	84 箇所を実施
堺市	約 400 名	計 4 トン	内川・土居川沿川で年 3 回実施
八尾市	-	-	大和川沿川で年 1 回開催
藤井寺市	約 1 万名	計 193.9 トン	「みぞ・すいろ・かわクリーン 21」運動
	約 2 万名	計 133 トン	藤井寺市クリーンキャンペーン
大阪狭山市	約 300 名	計 24 トン	市民ボランティアにより清掃活動や水質浄化運動を計 12 回実施

事例 No.12	事業内容：清掃活動以外の環境美化活動	
自治体名： 橿原市、生駒市、桜井市、香芝市、御所市、斑鳩町、川西町、王寺町、田原本町、広陵町、河内長野市、大阪狭山市		
キ - ワード： Change		
事業の継続性： 今後も継続予定		
事業内容及びPR ポイント：		
<p>いくつかの自治体では清掃活動以外の環境美化活動として、パトロールやポイ捨て禁止の看板設置にも積極的に取り組んでいます。</p> <p>広陵町では、看板設置の効果があつた地域となかつた地域が極端であつたことから、効果的な看板の設置方法について検討する必要があると考えています。</p> <p>(取り組み事例の一例)</p>		
自治体名	内容	備考
桜井市、斑鳩町	環境パトロールの実施	随時実施
	ポイ捨て、不法投棄禁止の看板の設置	
川西町	広報誌等を用いた啓発活動	計 8 回の記事を掲載
	リサイクル活動の支援	19 箇所計 109 回の支援を実施
王寺町	広報誌を用いた啓発活動	計 3 回の記事を掲載
河内長野市	環境パトロールの実施	定期的実施
	ポイ捨て、不法投棄禁止の看板等の配布	随時配布
大阪狭山市	河川パトロールの実施	年 3 回以上実施

流域全体から見た清掃活動以外の環境美化活動の実施状況：



【奈良県取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
奈良県	小学生を対象とした出前講座の実施	
	広報誌等を用いた啓発活動	
	かっぱ通信の発行	
	イベントでの啓発活動	
	環境県民フォーラムとの協働	
	生活排水社会実験の実施	
	体験講座（アクリルタワシ作製等）の開催	
	大和川清流ふれあい推進事業	
	下水道事業の実施	
	高度処理施設整備の推進	
	合併処理浄化槽の設置・整備の推進	
	浄化槽の清掃・保守点検等の適正管理の推進	
	河川浄化施設の整備	
	第6次水質総量規制の実施	
	河川水質調査の実施	
	河川をフィールドとした環境学習のイベントの開催	
	神奈備の郷・川づくり計画の実施	
自治体等と連携した清掃イベントの開催		

【大阪府取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
大阪府	広報紙等を用いた啓発活動	
	標語を活用した生活排水対策の啓発	
	HPによる情報提供	
	河川・砂防出前講座	
	「私の水辺」大発表会南河内地域交流会	
	生活排水対策推進月間	
	生活排水対策社会実験	
	空芯菜の栽培等	
	出前講座の実施	
	下水道事業の実施	
	浄化槽整備事業の実施	
	河川浄化施設の整備の実施	
	高度処理の推進	
	総量削減計画の推進	
	公共用水域の水質常時監視	
	アドトリバー制度による清掃活動支援	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
清掃活動の実施		
川をまもり隊		
啓発看板の設置（学校連携）		
親と子のふれあい自然学習会の開催	大阪府、近隣市町村と連携して開催	

【奈良県内自治体別取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
奈良市	広報誌等を用いた啓発活動	
	合流式下水道の改善	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	生活排水対策社会実験	大阪府、奈良県、松原市、奈良市、橿原市、生駒市、三郷町の3市町が協力
	河川水質調査の実施	
	佐保川清掃対策委員会が主催した清掃活動の共催	佐保川清掃対策委員会、奈良県、奈良市が協力
河川をフィールドとした環境学習イベントの開催		

自治体名	取り組み内容	備考
生駒市	広報誌等での啓発活動	
	小学生を対象とした出前講座の実施	
	イベントでの啓発活動	
	竜田川流域生活排水対策推進会議での啓発 食用廃油の回収	生駒市、平群町、斑鳩町で連携して実施
	生活排水対策社会実験	大阪府、奈良県、松原市、奈良市、橿原市、生駒市、三郷町の3市町が協力
	下水道事業の実施	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	合併浄化槽設置家庭に対する補助金交付	
	河川浄化施設による河川浄化の実施	
	河川水質調査の実施	
	環境パンフレットの製作	
	広報、作文、絵画等の公募	
	生駒市自然環境調査および情報の発信	
	東生駒川アジサイ育成事業	
	富雄川コスモス育成推進事業	
	生駒市独自の清掃活動の実施	
	環境パトロールの実施	
	不法投棄対策（看板設置）の実施	
	河川愛護に関するパネル展示の開催	
リサイクル活動の支援		
大和高田市	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
大和郡山市	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	食用廃油の回収	
	生活排水対策の啓発品の配布 河川水質調査の実施	
天理市	HP等での啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	河川をフィールドとした環境学習イベントの開催 天理市独自の清掃活動の実施	
橿原市	イベントでの啓発活動	
	小学生を対象とした出前講座の実施	
	折り込みチラシ、パネル等を用いた啓発活動	
	生活排水対策社会実験	大阪府、奈良県、松原市、奈良市、橿原市、生駒市、三郷町の3市町が協力
	食用廃油の回収	
	河川をフィールドとした環境学習イベントをボランティア団体と開催	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	河川水質調査の実施	
橿原市独自の清掃活動の実施 環境パトロールの実施		
桜井市	HP、広報誌等での啓発活動	
	イベントでの啓発活動	
	生活排水対策の啓発品の配布	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	浄化槽の適正管理の啓発	
	河川水質調査の実施	
	河川の水生物調査の実施	
	河川をフィールドとした環境学習イベントの開催	
	広報、作文、絵画等の公募	
	桜井市独自の清掃活動の実施	
	不法投棄対策（看板設置）の実施	
	環境パトロールの実施 各種体験教室の開催	
御所市	HP、広報誌等での啓発活動	
	イベントでの啓発活動	
	リサイクル活動の支援	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	施設の見学会の開催を通じた意識啓発	
	環境問題に関する講座	
	広報、作文、絵画等の公募	
	御所市独自の清掃活動の実施	
	不法投棄対策の実施	

自治体名	取り組み内容	備考
香芝市	HP、広報誌等での啓発活動	
	生活排水対策の啓発品の配布	
	河川水質調査の実施	
	香芝市独自の清掃活動の実施	
	イベントでの啓発活動	
	大和川博士講演	
	下水道接続率向上のための取り組み実施 下水道事業の実施	
葛城市	HP、広報誌等での啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	葛城市独自の清掃活動の実施	
平群町	下水道事業の実施	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	平群町独自の清掃活動の実施	
三郷町	HP、広報誌等での啓発活動	
	生活排水対策社会実験	大阪府、奈良県、松原市、奈良市、橿原市、生駒市、三郷町の3市町が協力
	大和川クリーンキャンペーン	雨による中止
	下水道接続率向上のための取り組み実施 下水道事業の実施	
斑鳩町	生活排水対策の啓発品の配布	
	河川の水生生物調査の実施	
	イベントでの啓発活動	
	市民ボランティアによる定期的な清掃活動	
	環境パトロールの実施	
	下水道事業の実施	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	斑鳩町独自の清掃活動の実施	
	不法投棄対策（看板設置）の実施	
	水難事故防止対策の実施	
安堵町	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
川西町	HP、広報誌等での啓発活動	
	生活排水対策の啓発品の配布	
	食用廃油の回収	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	河川水質調査の実施	
	河川をフィールドとした環境学習イベントの開催	
	施設の見学会の開催を通じた意識啓発	
	広報、作文、絵画等の公募	
	環境学習の教材作成	
	環境学習に関する情報提供・コーナー設置	
	市民ボランティアによる定期的な清掃活動	
リサイクル活動の支援		
三宅町	HP、広報誌等での啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	生活排水対策の啓発品の配布	
	食用廃油の回収	
	三宅町独自の清掃活動の実施	
田原本町	広報誌、パトロール等での啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	家庭版ISOの実施	
	食用廃油の回収	
	生活排水改善対策パネル展示	
	田原本町独自の清掃活動を実施	
	不法投棄対策の実施	
	環境パトロールの実施	
高取町	下水道事業の実施	
明日香村	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
上牧町	HP、広報誌等での啓発活動	
	イベントでの啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	上牧町独自の清掃活動の実施	

自治体名	取り組み内容	備考
王寺町	HP、広報誌等での啓発活動	
	イベントでの啓発活動	
	生活排水対策の啓発品の配布	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	市民ボランティアによる定期的な清掃活動	
	食用廃油の回収	
広陵町	街頭での啓発活動	
	河川水質調査の実施	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	自然観察会の実施	
	環境学習に関する情報提供・コーナー設置	
	広陵町独自の清掃活動の実施	
不法投棄対策の実施		
河合町	HP、広報誌等での啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
大淀町	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	

【大阪府内自治体別取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
大阪市	ビデオ・パネルを用いた啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	雨水吐口からごみ等の流出を防止する装置（夾雑物流出防止装置）の設置・運用	
	河川愛護キャンペーンの実施	
	施設の見学会の開催を通じた意識啓発	
	下水道事業の実施	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
八尾市	水辺の環境学習イベントの支援	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
	下水道事業の実施	
	八尾市独自の清掃活動の実施	
堺市	エコクッキングを通じた啓発活動	
	河川浄化施設による河川浄化の実施	
	自治会による定期的な清掃活動の実施	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
	河川敷内花壇の維持管理	
	下水道事業の実施	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
アドトリバー制度による花壇の維持管理		
富田林市	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
	親と子のふれあい自然学習会の開催	大阪府、近隣市町村と連携して開催
河内長野市	広報誌等を用いた啓発活動	
	食用廃油の回収	
	生活排水対策の啓発品の配布	
	下水道事業の実施	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	河川水質調査の実施	
	河川をフィールドとした環境学習イベントの開催	
	はがき絵コンクールの実施	
	親水空間の定期的な清掃の実施	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
	環境パトロールの実施	
	ポイ捨て、不法投棄禁止看板等の配布	
	アドトリバー制度による清掃活動支援	
親と子のふれあい自然学習会の開催	大阪府、近隣市町村と連携して開催	

自治体名	取り組み内容	備考
松原市	環境情報の発信	
	生活排水対策社会実験	大阪府、奈良県、松原市、奈良市、橿原市、生駒市、三郷町の3市町が協力
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	河川水質調査の実施	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
柏原市	アドトリバー制度による清掃活動支援	
	広報誌等を用いた啓発活動	
	河川水質調査の実施	
	アクリルタワシを用いた啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	竜田古道の里山整備事業	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
羽曳野市	市民マラソン大会の開催	
	エコクッキングを通じた啓発活動	
	広報誌等を用いた啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	河川浄化施設による河川浄化の実施	
	河川水質調査の実施	
	親子水辺の観察会	
	河川をフィールドとした環境学習イベントの開催	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
藤井寺市	東除川クリーン作戦	
	下水道事業の実施	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	HP、広報誌等を用いた啓発活動	
	イベント（市民まつり）での啓発活動	
	河川浄化施設による河川浄化の実施	
	河川水質調査の実施	
	小学生を対象とした環境学習会の実施	
	下水道課内での水生生物の展示	
	藤井寺市独自の清掃活動の実施	
大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催	
大阪狭山市	施設の見学会の開催を通じた意識啓発	
	広報誌等を用いた啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	河川水質調査の実施	
	市民ボランティアによる定期的な清掃活動	
	河川パトロールの実施	
	親と子のふれあい自然学習会の開催	大阪府、近隣市町村と連携して開催
河南町	広報誌等を用いた啓発活動	
	下水道接続率向上のための取り組み実施	
	下水道事業の実施	
	河南町独自の清掃活動	
	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域自治体や国交省、大阪府と連携して開催
太子町	親と子のふれあい自然学習会の開催	大阪府、近隣市町村と連携して開催
	広報誌等を用いた啓発活動	
	NPO等の清掃活動支援	
	太子町独自の清掃活動の実施	
	下水道事業の実施	
千早赤阪村	親と子のふれあい自然学習会の開催	大阪府、近隣市町村と連携して開催
	下水道事業の実施	
	親と子のふれあい自然学習会の開催	大阪府、近隣市町村と連携して開催

4 . 地域を育む豊かな大和川を目指して

4 . 1 取り組みについての総括

地域を育む豊かな大和川を目指すためには、大和川河川事務所や府県、市町村が主体となる取り組みだけでなく、地域住民の活動力を活かした取り組みも必要です。

大和川流域の自治体では、活動力の相乗効果を期待し、アドプトリバー制度の活用や「私の水辺」大発表会のような地域住民の交流の場を提供しています。

そのような状況の中、H19年9月に開催された「このゆびと～まれ！大和川の集い」の開催を契機に、「情報の交流」「人的・物的な相互支援」「行政への施策提言」「学校・社会教育への住民参加」等を目的とした「大和川市民ネットワーク」がH20年3月に設立されました。

今後、加入者を増やすための取り組みや情報の共有化のシステム作り、活動拠点・活動費用等の確保といった点を解決しなければなりません、「大和川市民ネットワーク」は奈良県民・大阪府民・環境活動団体等の新たな交流の場として活用されることが期待されます。

図5は、府県、市町村がロードマップの中でH22年までに取り組み予定として挙げている事業の延べ取り組み数⁶に対するH20年8月時点の進捗状況を整理したものです。

府県、市町村ともロードマップで示した事業を着実に実行しており、単年（H19年）の実施率は概ね100%となります。

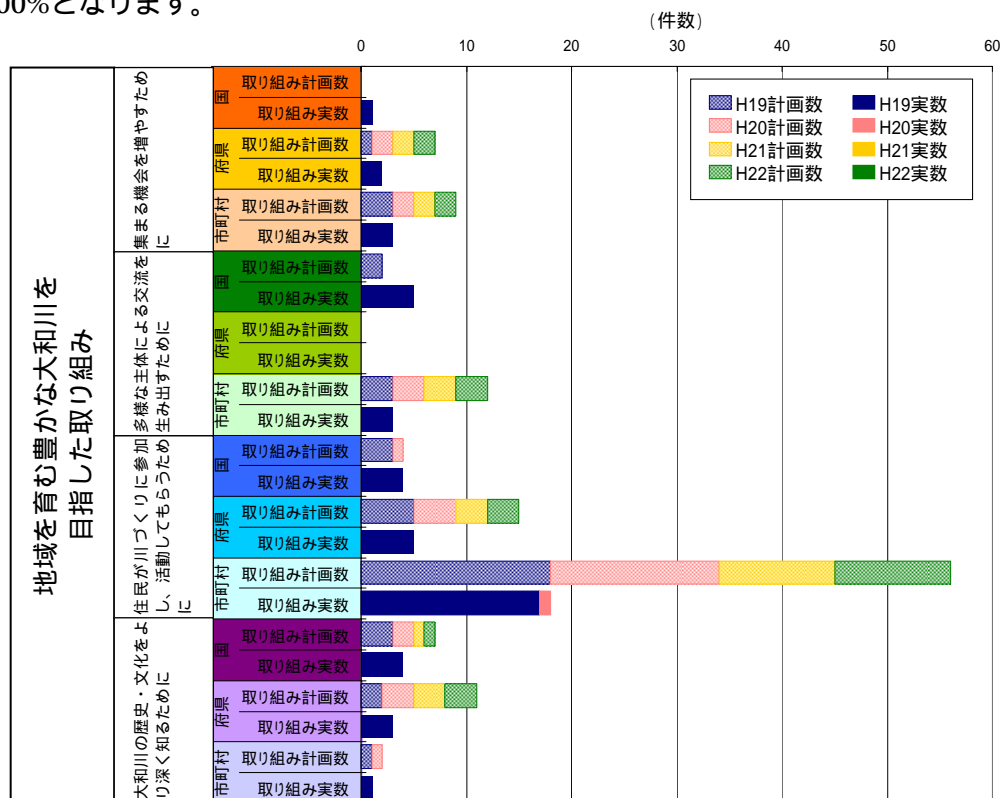


図5 府県及び市町村の取り組み状況

⁶ 延べ取り組み数は、ロードマップ作成時にH22年までに実施予定である業務の総取り組み年数（4年間実施する場合は取り組み数4とみなす）を示している。H19年に実施した事業の中にはロードマップに記載していない事業も含まれており、その場合、「延べ取り組み数<実施事業数」となる

4.2 事例紹介

「地域を育む豊かな大和川」を目指すための対策として、Cプロジェクトは 人と人との交流の場の提供、大和川をよりよくするための住民参加、大和川への理解を深め、大和川を大切に
する姿勢の育成、の3つの対策を謳っています。

「地域を育む豊かな大和川」を目指すための事業は他の2つと比べて地域住民の活動が中心的
役割を担っており、実現には地域住民の活動が必要不可欠です。

次ページ以降に代表的な事例を紹介します。

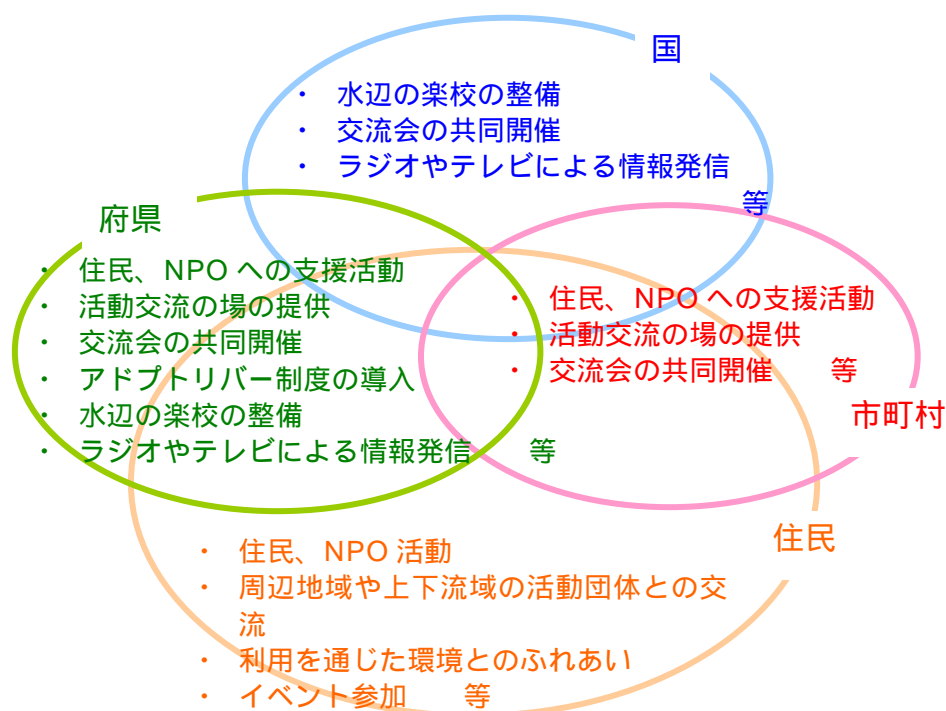


図 6 国・府県・市町村・地域住民が担う役割の概要図

< 紹介事例リスト >

事業 No	事業概要	
No.13	事業内容	交流を深める機会、知り合う機会の提供
	実施状況	参加者からは好評を得ている。
No.14	事業内容	大和川を知る機会の提供
	実施状況	取り組み事例数は多くないのが現状であり、今後、積極的に取り組むことが望まれる。
No.15	事業内容	多様な主体が参画できる機会、制度の整備
	実施状況	既に多くの活動団体への支援が行われている。ただし、支援体制が整備されている自治体数は少ないことから、対応できる自治体数を増やしていくことが重要である。

事例 No.13 | 事業内容：交流を深める機会、知り合う機会の提供

自治体名：大阪府、堺市

キ - ワード：Collaborate、Concentrate

事業の継続性：今後も継続予定

事業内容及び PR ポイント：

大阪府では H14 年度から地域毎に「私の水辺」大発表会を開催しています。

この発表会は日頃の活動内容を発表するだけでなく、「水辺」に関わる住民間の交流を深める場としても活用してもらうことを目指しています。

参加者からも良好な感想を頂いており、今後も継続して取り組んでいく予定です。

(各大発表会の概要)

	内容	参加状況
北部地域交流会	ハガキ絵の展示、川の生き物モビール製作、ポスターセッション、パネル人形劇、「水辺の共同宣言」の作成、防災食の試食会等	10 小学校、箕面川健康管理センター池田出張所他
「水」からつながるなんでも博覧会～泉北地域交流会～	50年前の子供たちの遊びに関する講演、成果発表会、パネル展示、クイズラリー、実体験コーナー、工作コーナー等	9 小学校、1 高校、NPO 団体、企業他
泉南子ども地域交流会	発表会、ゲーム、「水辺大絵地図」の作成等	6 小学校他
北河内地域交流会	発表会、絵画展示、パネル展示、水質パックテスト等	5 小学校他
中河内地域交流会	ポスターセッション、体験コーナー、大和川博士講座等	4 小学校、東大阪市ガールスカウト連絡協議会他
南河内地域交流会	「川のいきもの」の講演、ポスターセッション、葦笛作り等	3 小学校、石川子供自自然隊他



この他にも、堺市では昨年に引き続き、楽しいんやさかい大和川水辺の楽校を開催し、1 日で約 1,000 人の参加があり、開校に向けた十分な PR となりました。

事例 No.14 | 事業内容：大和川を知る機会の提供

自治体名：大和川河川事務所、奈良県、広陵町

キ - ワード：Change

事業の継続性：今後も継続予定

事業内容及びPR ポイント：

大和川河川事務所ではコミュニケーション型国土行政の一環として、大和川に関する情報を楽しく、わかりやすく説明する出前講座 (CDST*1) を実施しています。H19.9～H20.8 の1年間で10回開催し、受講者は計678名にのぼります。参加者の感想は良好でリピーター率も上がってきていることから、効果があるといえます。

ただし、比較的依頼のある地域とそうでない地域が明確に分かれていることから、依頼の少ない地域に対しては積極的に働きかけていく予定です。

*1) クラス・デリバリー・サービス・チームの略。
出前講座を実施している大和川河川事務所職員のチームの通称。

その他の自治体でも大和川の歴史や文化、大和川で行われている取り組み等、大和川に関する様々な情報を提供する取り組みが行われています。

(取り組みの一例)

自治体名	内容	備考
大和川河川事務所	マスメディアによる情報発信	NHK、ラジオ大阪
	Cプロジェクトに関する実施報告書、概要版の作成公表	年1回公表
	大和川市民ネットワークの設立	詳細は P.49
	CDST	
奈良県	かっぱ通信として流域内にある167の小学校に河川情報誌を配布	年3回実施
広陵町	大和川の歴史や文化に関する出前出張講座の実施	年4回開催



かっぱ通信 H20.7月号



CDST での様子

事例 No.15	事業内容 ：多様な主体が参画できる機会、制度の整備		
自治体名 ：奈良県、大阪府、大和郡山市、生駒市、橿原市、斑鳩町、川西町、三宅町、田原本町、明日香村、大阪市、堺市、松原市、河内長野市、大阪狭山市、太子町、富田林市			
キ - ワード ：Change			
事業の継続性 ：今後も継続予定			
事業内容及びPRポイント ： <p>Cプロジェクトでは国・府県・市町村が主体となった事業だけでなく、地域住民が主体となった事業へのサポートにも積極的に取り組んでいます。</p> <p>奈良県ではNPO等が行う除草、清掃等の河川美化愛護活動に対して、物品や保険の支給といったサポートを行っており、H19年度は121団体が支援対象となりました。支援対象となる団体数は増加傾向にあることから、地域住民の河川への関心が増していると考えられます。</p> <p>また、一定規模以上の活動をしている団体に対しては「地域が育む川づくり事業」への移行を呼びかけており、H19年度は計7団体（大和川流域内で活動しているのは5団体）と協定を結んでいます。</p>			
<p>「地域が育む川づくり事業」とは・・・</p> <p>地域の社会財産である地域住民や企業が、草刈り等で河川を主体的に維持管理していくことを支援するため、団体と県の間で3箇年の協定書を締結し、維持管理行為としての一定の水準を確保した草刈り、及びそれに付随して行われる草花植栽、清掃活動に対して、活動面積に応じた報奨金の支給、傷害・賠償責任保険への加入、サインボード（看板）の設置及び物品の貸与または支給を行う事業のことをいいます。</p>			
(地域が育む川づくり事業 参加団体)			
団体名	活動内容	活動箇所（河川名）	人数
三代川愛護会	草刈り、清掃、草花植栽	斑鳩町目安（三代川）	20名
寺田町自治会	草刈り、清掃	橿原市寺田町（高取川）	20名
五井町自治会	草刈り、清掃	橿原市五井町（高取川）	30名
竜田川のもみじを守る会	草刈り、清掃	斑鳩町龍田北～神南（竜田川）	22名
太閤園自治会	草刈り、清掃、草花植栽	大和郡山市小泉町（富雄川）	29名
<p>大阪府や大阪府内の市町村の中にはアドプトリバー制度による協定を結び、同団体が清掃活動を行う際には、清掃用具の貸し出し、職員の派遣、損害保険の締結等の支援を行っているところもあります。</p>			

(アドプトリバー協定を結んでいる団体一覧)

市町村名	アドプトリバー名	河川名	団体名
堺市	五箇荘東校区自治連合会	光竜寺川	五箇荘東校区自治連合会
堺市	英彰校区自治連合会	土居川	英彰校区自治連合会
堺市	野遠東	西除川	野遠東緑花を愛する会
松原市	堀町会連合会	西除川	堀町会連合会
松原市	河合自治振興会	西除川	河合自治振興会
太子町	唐川ホテルを守る会	唐川	唐川ホテルを守る会
富田林市	佐備川	佐備川	富田林自然に親しむ会
富田林市	伏見堂	石川	伏見堂地域協力委員会
富田林市	蛭の郷	佐備川・宇奈田川	佐備川・宇奈田川 環境保護委員会
富田林市	三津屋川を美しくする会	三津屋川	三津屋川を美しくする会
河内長野市	栄町	石川	河内長野市栄町連合町会
河内長野市	高向	石川	高向区自治協議会
河内長野市	大師町	天見川	社団法人 河内長野シルバー人材センター

流域単位で活動しているものでは、飛鳥川流域の5市町村で活動している「飛鳥川流域生活排水対策推進会議」があります。(P.46でも紹介)

その他、市町村でも以下に示すような取り組みを積極的に進めています。

その中で、大阪狭山市で活動している狭山池祭り実行委員会は、「狭山池クリーンアクション」を通じた活動が評価されて、H19年度おおさか環境賞の奨励賞(府民活動部門)が送られました。

(生駒市)

東生駒川アジサイ育成事業において、草刈に要する費用は生駒市が支援する一方で、維持管理を自治会が行う内容の協議を地元自治会と締結。

(大阪市)

大和川の河川敷公園において、地元の愛護会が主体的に行う清掃活動等の維持管理活動に対して交付金を支給。H19年度は4団体が計254回の清掃を実施。

協働~NEWS~

問い合わせ 市民協働・生涯学習推進グループ、市民活動支援センター ☎ 366-4664

「狭山池まつり2007」4月29・30日に開催決定



狭山池まつりは、市民のシンボルである「狭山池」の再発見と水との共生、まちの歴史・文化の継承と共有、人づくり・まちづくりを市民の手で進めよう。狭山池まつり実行委員会が企画を考案、実施の手事も手探りでつくり上げてきました。今年も開催日が、4月29日(祝)・30日(祝)に決定しました。昨年同様、29日は狭山池の周りをろうそくで囲み池が誕生を祝う「灯火輪」、30日は恒例になったフラッシュカー・ミーティングやフリーマーケットなどを実施。多回も開演舞台は同日とも実施します。狭山池まつりの各事業への出展者(店)、出演・参加者や当日ボランティア、学生ボランティアなどを募集します。募集要項は、大阪狭山市商工会、市役所、市立公民館、市立コミュニティセンター、市民活動支援センターなどで配布します。狭山池まつりのホームページはhttp://www.mydoo.net/kenasuri/からもダウンロードできます。問い合わせ 狭山池まつり実行委員会事務局(大阪狭山市商工会) ☎ 366-3194

60回目を迎えた「狭山池クリーンアクション」

狭山池は、日本農業のため池としてはるか遠い飛鳥時代から、悠久の時を耐えてきたふるさと(の)の誇りです。現在は、早朝から周遊道を歩く人が絶えず。家族やグループで散策に来る人たちも増えてきました。「花・樹が繁り野鳥が飛び交い心を癒す美しい狭山池を、旅の手でのんびり」をスローガンに、市民の手で美しい狭山池を守ろうと「狭山池クリーンアクション」は続けられています。参加者それぞれのできることで、無理せず、でも少しだけがんばって池をきれいにしたい。平成14年の第1回狭山池まつりの後片付けから始まることもなく始まり、同年7月から1回を定例化して4年6か月、臨時の取り組みを含め、昨年12月に60回を数えました。これを記念して、狭山池にまつわる鷹や板などをモチーフにしたピンバッジを実行委員会で製作しました。今後も10回の参加ごとにバッジを1個もらえます。より多くの市民の参加で、ふるさと(の)の誇り「狭山池」により美しいものにして次代に引き継ぎましょう。



広報おおさかさやま H19.1号

【奈良県及び大阪府取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
奈良県	河川美化愛護団体支援事業	
	地域が育む川づくり事業	
	情報誌の発行	
大阪府	「私の水辺」大発表会南河内地域交流会	
	「南河内 水辺のつどい」	
	アドブトリバー制度による清掃活動支援	
	川をまもり隊	
	大和川を深く知ることができる情報発信	

【奈良県内自治体別取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
奈良市		
生駒市	東生駒川アジサイ育成事業	
	富雄川コスモス育成推進事業	
大和高田市		
大和郡山市	自治会による定期的な清掃活動	
天理市		
橿原市	飛鳥川生活排水対策推進会議の取り組み	飛鳥川流域の5市町村と連携
	河川をフィールドとした環境学習イベントをボランティア団体と開催	
桜井市	大和さくらい万葉まつりの開催	
御所市		
香芝市		
葛城市		
平群町		
三郷町		
斑鳩町	市民ボランティアによる定期的な清掃活動	
安堵町		
川西町	飛鳥川生活排水対策推進会議の取り組み	飛鳥川流域の5市町村と連携
三宅町	飛鳥川生活排水対策推進会議の取り組み	飛鳥川流域の5市町村と連携
田原本町	飛鳥川生活排水対策推進会議の取り組み	飛鳥川流域の5市町村と連携
高取町		
明日香村	飛鳥川生活排水対策推進会議の取り組み	飛鳥川流域の5市町村と連携
上牧町		
王寺町		
広陵町	大和川の歴史や文化に関する出前出張講座の実施	
河合町		
大淀町		

市民ボランティアの活動とは清掃活動だけでなく、河川の維持・管理も含めた活動を意味する。

【大阪府内自治体別取り組みリスト】

自治体名	取り組み内容	備考
大阪市	維持管理活動に対する支援	
八尾市		
堺市	楽しいんやさかい大和川水辺の学校	
	アドブトリバー制度による花壇の維持管理	
	内川・土居川まつりの開催	
富田林市	農業祭・ふれあい祭りの開催	
	アドブトリバー制度による清掃活動支援	
河内長野市	南河内水辺の集いおよび準備会への参加	
	アドブトリバー制度による清掃活動支援	
松原市	南河内水辺の集いへの参加	
	アドブトリバー制度による清掃活動支援	
柏原市	市民郷土まつりの開催	
	こいのぼりまつりの開催	
羽曳野市		
藤井寺市		
大阪狭山市	環境・リサイクルフェアの開催	
	市民ボランティアによる定期的な清掃活動	
河南町		
太子町	唐川ホタルを守る会、アドブトリバー唐川	
千早赤阪村		

市民ボランティアの活動とは清掃活動だけでなく、河川の維持・管理も含めた活動を意味する。

先駆的事例紹介

1. 浸水常襲地域における減災対策緊急プログラム作成（平成 19 年度成果報告）

奈良県では、H19 年 7 月の集中豪雨により 1,000 戸を超える浸水被害が発生するなど、近年においても浸水被害が頻発しています。

浸水被害の原因は様々な要因が考えられることから、これまで以上に関係部局・市町村が連携し、浸水被害の軽減に向けた取り組みを進める必要があります。

このため、県庁内に「浸水常襲地域における減災対策検討会議」を設置し、関係部局や市町村と連携し、これまでの浸水被害箇所の整理を行うとともに、浸水常襲地域（S57 年 8 月以降、3 回以上浸水被害が発生した地域）については浸水被害発生の原因分析及び減災対策を検討しております。この検討結果を踏まえ、H20 年 3 月に「浸水常襲地域における減災対策緊急プログラム（平成 19 年度成果報告）」をとりまとめました。

（減災対策緊急プログラム 平成 19 年度成果報告）

対策内容		浸水常襲地域数
対策が まとまった地域	概ね 5 年を目途に浸水被害を軽減する地域	28 地域
	中長期的に浸水被害を軽減する地域	12 地域
	対策はまとまったが、工期を調整している地域	8 地域
	浸水被害軽減に向け、継続的に維持管理を実施する地域	3 地域
	合計	51 地域
引き続き原因分析、減災対策の検討を実施する地域		45 地域
合計		96 地域

～（市町村を越えた活動紹介） 飛鳥川流域生活排水対策推進会議～

飛鳥川流域生活排水対策推進会議は、橿原市、川西町、三宅町、田原本町、明日香村の5市町村から構成された会議で、地域住民の水質保全に関わる意識の高揚を図るとともに、「水遊びのできる川づくり」を目指して、廃食用油の回収、啓発活動の実施、河川清掃の実施等の事業を行っています。廃油の回収量は実施開始のH6年度から順調に増加しており、H19年度は約1万4千リットルの過去最高となりました。



環境教育に
関するイベント

としては小学校4年生の総合学習時間を利用して水に関する環境学習を開催したり、NPO法人と協働でホタル保護推進事業を実施する等、関係機関と連携した様々な活動を進めています。

2. まるごとまちごとハザードマップ

「まるごとまちごとハザードマップ」は、日常時には洪水への意識を高めるとともに浸水深や避難所等の情報提供として、災害発生時には安全かつスムーズな避難行動の手助けとなるよう、情報を街の中に表示したもので、松原市は大和川河川事務所と協力しながら大阪府内で最初の「まるごとまちごとハザードマップ」の看板設置（4箇所）、ポスター作成、地域住民への周知を行いました。

今後は、「まるごとまちごとハザードマップ」を用いた防災訓練の実施などを通じて、地域防災力が向上していけるよう、自治体や地域住民と一体となった取り組みを進めていく予定です。

なお、「まるごとまちごとハザードマップ」は、他地域での設置も進める計画です。



作成したポスター



松原市内に設置した場所

3. 地域住民との協働による生物調査・水質調査

大和川河川事務所では、H16年4月に取りまとめられた「河川水質の新しい指標」を用いた水生生物調査と水質調査を地域住民と共に実施しました。

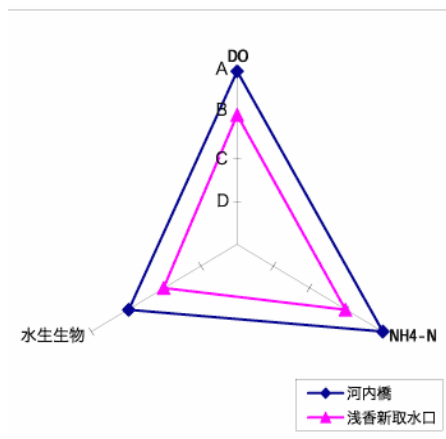
参加者からは「生き物採取と水質実験が楽しかった」「もっと生き物を採取したい」といったイベントに対して好評な感想があった一方で、「川が臭かった」「生き物採取時にゴミばかり取れた」といった大和川に対する率直な感想がありました。

このように、大和川の水環境を実感できることから、環境学習として有効な取り組みといえますが、参加者を今後どのように増やしていくかが課題といえます。

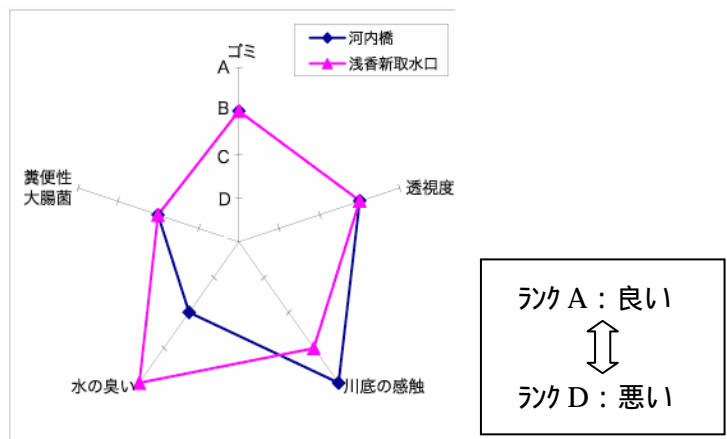
(開催状況)

実施日時	参加人数	調査場所
H19.9.11	小学4年生 52名	堺市堺区浅香山町地先
H19.9.20	小学5年生 65名他	河内橋付近(柏原市)
H19.10.2	国土交通省職員 11名	御幸大橋南詰(河合町)
H19.10.18	小学3年生 11名	藤井大橋北詰(三郷町)

「豊かな生態系の確保」



「人と河川の豊かなふれあいの確保」



新しい評価指標での結果(大和川河川事務所記者発表資料 H19.10.22)



水質パケットテスト(浅香)



水生生物調査の様子(藤井)

4. 大和川市民ネットワークの設立

大和川市民ネットワークは、H19年9月に開催された「このゆびと～まれ！大和川の集い」において、参加者の皆さんから設立の要望が上がり、以来設立準備会を立ち上げ、H20年3月に設立されました。

奈良県・大阪府で活動している様々なNPO等の団体、学校、民間企業などが集まり、「情報の交流」、「人的・物的な相互支援」、「行政への施策提言」、「学校・社会教育への住民参加」等を目的として、ニュースレターの発行や各地で取り組みの交流を実施しています。

今後、大和川市民ネットワークを通じて行政と住民との地域連携が活発になると思われます。



大和川市民ネットワーク設立総会の様子

大和川市民ネットワークだより 第4号

2020年1月 巻頭 編集・発行：「大和川市民ネットワーク」事務局

1. 巻頭 大和川市民ネットワークイベント

溢れは来東へ「大和川の日」市民フォーラムを開催

10月13日（日）「ゆびと」中津、和歌山県立文化センターホールにて、78人が参加、熱気に充ちた。ゆびとが主催する市民フォーラムの開催、ゆびとの研究活動が発表された。和歌山県立文化センターホールにて、10月13日（日）「ゆびと」中津、和歌山県立文化センターホールにて、78人が参加、熱気に充ちた。ゆびとが主催する市民フォーラムの開催、ゆびとの研究活動が発表された。

フォーラムは、ゆびと市民フォーラムによる「大和川再生～ゆびとの研究～」をテーマにした。ゆびとが主催する市民フォーラムの開催、ゆびとの研究活動が発表された。

ゆびとが主催する市民フォーラムの開催、ゆびとの研究活動が発表された。

ゆびとが主催する市民フォーラムの開催、ゆびとの研究活動が発表された。

【イベント情報】

開催	イベント名	主催する団体	その他
10月1日（日）	大和川ゆびと入居祝賀会（祝）	大和川市民ネットワーク	1000名参加の祝賀会
10月5日（日）	ゆびと市民フォーラム	ゆびと事務局	78名参加の市民フォーラム
10月10日（日）	大和川市民ネットワーク第2回総会	大和川市民ネットワーク	100名参加の総会
10月15日（日）	大和川市民ネットワーク第3回総会	大和川市民ネットワーク	100名参加の総会

【1/1 古いボランティアフェスティバル】

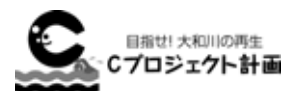
大和川ゆびとが主催するボランティアフェスティバルを開催しました。

新加入者紹介（2/22開催、加入50人、会場10）

（左）氏名	所属	地域
木村 寿弘	和歌山県立文化センター	和歌山
木村 寿弘	和歌山県立文化センター	和歌山
山崎 美花	和歌山県立文化センター	和歌山

市民ネットワークの発展を期待して、ゆびと事務局へお問い合わせください。

大和川市民ネットワークだより



Cプロジェクト取り組みに関する住民意見の取りまとめ

H19年2月にCプロジェクト計画2006概要版が流域全体に配布され、計画に対する意見募集を行っています。H20年3月までに寄せられた意見とこれに対する取り組み状況は以下のとおりです。

頂いた意見のうち、すでに取り組みを進めている自治体もあります。また、取り組み事例がないご意見については、残期間やすでに計画している事業内容を踏まえた上で、H20年次以降の取り組みに取り込んでいきたいと考えています。

No	意見要約	取り組み状況
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cプロジェクト計画自体は素晴らしい構想だが、具体性にかけている。 ・ 年度別に実行計画を作成し、計画に沿った事業実施が必要不可欠ではないだろうか。 	残期間のロードマップを作成し、計画の進捗管理を行います。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汚濁源を確認するための「調査ハイキング」のようなイベントを開催してはどうか。 	啓発活動のひとつとしてそのような企画を検討していきます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cプロジェクトの内容は分かりにくい。テーマを簡潔にまとめると共に、役割分担や対策を明確にしてはどうか。 	本レポート内で、国・府県・市町村・住民が担う役割について、大まかではありますが掲載しています。今後も分かりやすい情報提供を心掛けます。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域清掃活動等に若い世代の参加率を上げるための方策を立てることが重要ではないか。 	若い年齢層の参加率向上については何がしかの対策が必要であることは認識しています。若い世代が参加しやすくなるような仕組みを関係機関と連携して検討します。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村の広報に地域活動に関する情報があまり載せられていないように感じる。 	地域における地道な活動も情報掲載されるよう各市町村で調整を図りたいと考えます。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画を遂行するためには企業の協力が不可欠と感じる。 ・ 企業に対しても協力要請をすることが重要である。 	学校単位での活動や地元自治会の活動を支援するシステムを導入しています。このシステムが有効に利用されるよう積極的に広報したいと考えています。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親に家庭でできることをアピールしてもらうよう、子供にこの活動の重要性を理解させることが重要である。 ・ 学校教育の中でも取り組んでいけるように、環境教育に関するゲストティーチャーを派遣して欲しい。 ・ 子供を突破口として家庭を巻き込んで実践していける環境ができればよいと感じる。 	いくつかの自治体では小学校への環境学習支援を実施し、学校と連携した環境学習に取り組んでいます。今後は、小学生に行う社会見学などで水質の大切さや家庭でできる取り組みに主眼に置いた環境学習支援等を行い、子供達への啓発活動の機会を増やす予定です。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なところからの取り組みが一番大きな成果に繋がると感じており、計画自体は良いものと感じる。 ・ この計画の成果を公開して行って欲しい。 	過去1年間に各自治体が行った事例を取りまとめたレポートと概要パンフレットの作成・公表は今回が2回目となります。Cプロジェクトが完了するH22年までは毎年作成・公表する予定です。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道工事の推進や用水路の自治体（会）による清掃活動を進めることが重要。 ・ 下水道の早期普及を目指すことが重要。 ・ 自浄作用を増進させる方策を講じてはどうか。 	いくつかの自治体では自治会による清掃活動が定期的に行われており、多くの地域住民が参加しています。また、自治体としては下水道整備だけでなく、接続率の向上にむけた取り組みも進めています。

10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 護岸工事では多自然川づくりを勧めて欲しい。 	<p>多自然川づくりによる河川整備を進めています。今後は、H20.3に国交省から通達があった「中小河川の河道計画に関する技術基準」により可能な段階での計画の見直しを進め、多自然川づくりを積極的に進めていきたいと考えています。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川清掃の回数を増やしてはどうか。 ・ ゴミを捨てさせないような取り組みが重要。 	<p>これまで大阪府で実施していた「大和川・石川クリーン作戦」に合わせて、奈良県では H20 年度から一斉清掃活動を実施する予定です。流域全体での清掃活動を実施することで、これまで以上の啓発効果を期待しています。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大和川の現状を流域外の人にも知ってもらい、意識向上を図ってはどうか。 ・ 大和川に関するTV番組を作成してはどうか。 ・ 一部の人だけの活動では限界がある。マスコミ等を通じた意識の啓発活動が大切ではないか。 	<p>これまでラジオを通じた活動紹介やNHKを通じた大和川の紹介を行ってきました。今後も、積極的にマスコミを通じた啓発活動を進めたいと考えています。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミの不法投棄に対する地道な啓発活動の実施が大切。 	<p>いくつかの市町村では広報誌への啓発記事の掲載、看板の設置による啓発活動を行っています。また、いくつかの自治体では住民と協働して定期的な清掃活動を行っています。</p>

「奈良県山の日・川の日」での活動紹介

奈良県では H20 年 7 月に、7 月第 3 月曜日を「奈良県山の日・川の日」とする条例が制定されたことを受け、県内各地でイベントを開催しました。

大和川流域でも 5 つのイベントを開催し、いずれのイベントも参加者の感想は好評でした。

今後は、既存のイベントを軸としてさらに内容を検討するとともに、関係機関との連携を図りながら、条例の趣旨にふさわしい取り組みを継続していきたいと考えています。

（広報活動）

広報内容	備 考
複数の新聞への広告欄に啓発およびイベント案内	
インタビュー形式による山の日・川の日の紹介	奈良新聞掲載（H20.7.21）
河川課 HP に地図と一覧による イベント案内記事を掲載	H20.7.11～掲載
コミュニティ FM ラジオへの電話による生出演	
各種新聞の奈良版への記事掲載	
チラシによるイベント案内	

（イベント別参加状況）

イベント名	開催日	参加人数	備 考
川とのふれあい ～施設見学・リバーウォッチング～	H20.7.21	47 名	
アクリルタワシ作製講座	H20.7.23・31	126 名	アクリルタワシ作製以外にも、大和川博士講座なども実施
川の歴史・文化講座 ～万葉歌にみる飛鳥川～	H20.7.21	14 名	
川の清掃 ～河川の一斉清掃デー～	H20.7.21・27	約 940 名	佐保川、竜田川、高田川、高取川で実施
亀の瀬地すべり見学会	H20.7.21	35 名	



アクリルタワシ作製講座



亀の瀬地すべり見学会



施設見学・リバーウォッチング 1



施設見学・リバーウォッチング 2

「奈良県山の日・川の日条例」

(目的)

第 1 条 この条例は、奈良の山と川が県民をはじめ奈良を訪れる人々にとって共通の貴重な財産であることにかんがみ、県及び県民が山と川の果たす役割の重要性及びこれらがもたらす恩恵について認識を新たにし、これらが有する様々な魅力について関心と理解を深めるとともに、山と川の環境保全、再生及び適正な利用を図るため、奈良県山の日・川の日を設け、もって県民が誇りと愛着を持つことのできる奈良の美しい山と川をはぐくみ、次世代に引き継ぐことを目的とする。

今後の取り組み（更なる推進に向けて）

（府県での今後の取り組み）

「大和川水質改善検討チーム」（大阪府）

大和川流域に流入する BOD 負荷量の約 8 割は生活排水によるものであるため、大阪府では、関係部局が連携して生活排水対策の取り組みを実施してきましたが、大和川の水質は依然として全国でワースト 1（H19 年実績）を記録しています。

このことから、大和川の一層の水質改善を目指して、H20 年 11 月、大阪府生活排水対策推進会議の中に大和川水質改善検討チームを立ち上げました。

このチームでは、下水道と合併処理浄化槽の適切な組み合わせによる対策の早期推進など、流域の効率的な水質改善方策を検討しています。

「よみがえれ！大和川清流復活大作戦」（奈良県）

奈良県では平城遷都 1300 年を機に、国際文化観光都市にふさわしい清流を目指す水質改善プロジェクト「よみがえれ！大和川清流復活大作戦」を展開します。

このプロジェクトでは、以下の取り組みを通じて、水質改善を進める予定です。

奈良県の関係部局、大和川河川事務所、流域市町村、住民団体、企業などから構成される大和川清流復活ネットワークを H20 年 11 月に設立し、協働して水質改善に取り組みます

支川毎の水質現状調査と水質汚濁負荷分析を行い、支川毎に水質改善のための方策や目標設定を行います

支川毎の水質の公表、水生生物マップ、展示用パネル等を通じた情報発信を行います

支川毎の水質に応じた取り組みを実施し、効率的な水質向上を目指します

改善対策の成果の評価分析を行い、その結果を次なる取り組みに生かします

府県連携強化に向けた取り組みの推進

上記のとおり、府県ともに水質改善に向けた取り組みが立ち上げられたこともあり、今後は国、奈良県、大阪府、流域市町村間の連携を一層強化することで、水質の更なる改善が期待されます。

（その他の更なる推進）

C プロジェクトに関する住民意見で、流域外への情報周知努力を求める声をいくつか頂いています。

このことを踏まえて、関係機関の HP での活動報告等の可能性について検討する予定です。

また、C プロジェクト計画が始まり、すでに 2 年間の経過していることから、現時点で生じている問題や課題を整理し、残期間で目標を達成できるようにロードマップを作成し、更なる推進を図ります。

【今後、見直しが可能な点（一例）】

- ・ 多くの自治体では類似した取り組みを個別に実施していることから、近隣の自治体と連携して実施することで、住民間の交流を図る

（例） 石川流域の6市町、曾我流域の10市町等、支川単位での水防訓練の実施

エコッキングを通じた啓発活動（堺市、羽曳野市）

河川をフィールドとした環境学習イベント

- ・ 取り組みが進んでいない項目（大和川の歴史や文化を知る取り組みや地域住民が交流する取り組み）についての積極的な計画立案

（H22年に向けたロードマップ）

生命・財産を守る安全で安心な大和川

目標の体系			主な取り組み項目				主要な役割を担う部門		
			2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	国	府県	市町村
生命・財産を守る安全で安心な大和川	水害による被害を軽減する	住民が水害の危険性を理解し、万々に備えるために	整備状況、危険情報の発信						
			洪水ハザードマップなどによる想定される被害状況等の発信						
			防災意識の啓発						
		水害の発生を防ぐために	治水事業の実施						
			河川事業に関する計画の策定						
			水害発生時の情報連絡体制の整備、改善						
	土砂災害による被害を軽減する	住民が土砂災害の危険性を理解し、万々に備えるために	土砂災害警戒区域の指定						
			防災意識の啓発						
			地滑り対策						
		土砂災害の発生を防ぐために	土砂災害対策						
			災害発生時に速やかに対応するために	情報連絡体制の整備					
				訓練の実施					
水質事故による被害を軽減する	水質事故の発生を防ぐために	水質事故マップの作成							
		事業場等への指導							
	水質事故発生時に速やかに対応するために	被害拡大防止対策							

次世代に伝える美しい大和川

目標の体系			主な取り組み項目				主要な役割を担う部門		
			2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	国	府県	市町村
次世代に伝える美しい大和川	泳げる、飲み水に利用できるような水質へ改善する	各家庭からできるだけ汚れを出さないために	意識啓発、教育、情報発信						
			生活排水社会実験の実施						
			家庭における実践の支援(廃油回収、アクリルタワシ、水切りネットなど)						
			住民やNPO等が行う河川関連活動への支援、協働						
	家庭や工場等から発生した汚れ(汚濁負荷)を減らすために	より効果的に水質改善を進めるために	下水道の整備						
			浄化槽の整備						
			河川浄化施設の整備						
			総量規制、削減計画など						
	多様な動植物の生息・生育環境を保全・創出する	動植物が生息しやすい河川環境を創出するために	多様な水辺環境の保全、再生、創出、魚道の整備						
			動植物に関する調査						
			モニタリング等の調査						
			外来種対策						
	大和川らしい水辺景観を保全・創出する	歴史、文化を感じられる景観とするために	良好な河川景観の保全、創出						
			大和川にまつわる歴史文化の発信						
		ごみの無い川にするために	計画の策定						
			定期的な清掃活動の実施						
			意識啓発、大規模な清掃イベントの開催						
			その他(不法投棄対策)						
川と人とのふれあいが見られる川にするために		利用空間の整備・維持							
		情報発信、イベントの開催等によるきっかけづくり							
		その他(水難事故対策)							

地域を育む豊かな大和川

目標の体系			主な取り組み項目				主要な役割を担う部門		
			2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	国	府県	市町村
地域を育む豊かな大和川	人が集まる、人と人が触れ合う(利用してもらおう、交流してもらおう)	集まる機会をふやすために	集まりやすい場の整備						
			情報発信、イベントの開催等によるきっかけづくり						
		多様な主体による交流を生み出すために	交流の場、仕組みづくり						
			知りあひ機会づくり						
	みんなで大和川を元気にする	住民が川づくりに参加し、活動してもらうために	住民の意見の聴取と川づくりへの反映						
			多様な主体が参画できる機会、制度、仕組みづくり						
			人材育成とそれを支える仕組み作り						
	みんなで大和川を大事にする	大和川の歴史・文化をより深く知るために	大和川を深く知ることができる情報発信						
			歴史・文化を学習・体験する機会をつくる						